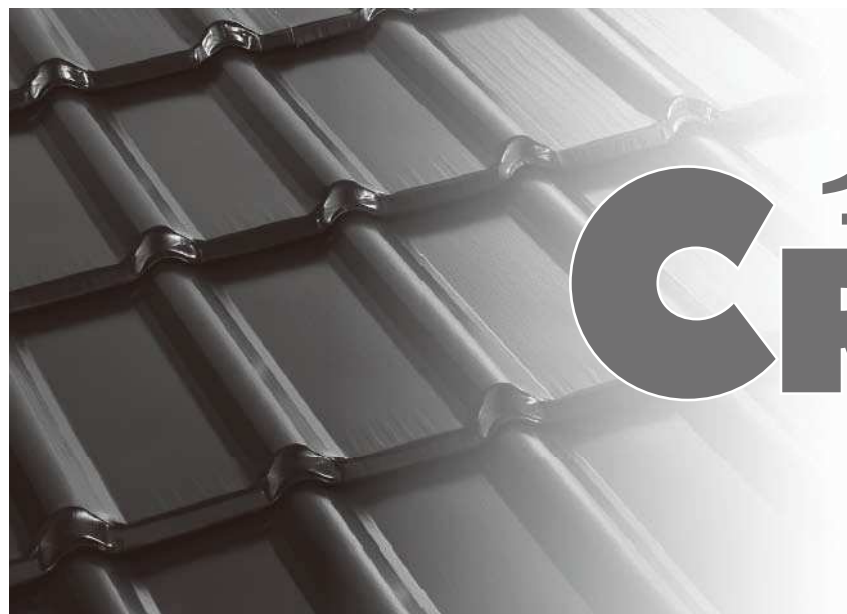


Fukuizumi



クレスパ **CRESPA** ルーフ

設計・施工マニュアル

2017.2.17

目次

1.安全上の注意	2
2.製品仕様（本体形状/標準仕様）	3
3.使用部材	4-6
4.施工の準備（施工上の心得）	7
5.標準施工方法	
工事の手順	8
下地づくり/ルーフィング貼り	9
芯墨出し/軒先・縦 桟木取付け	10-11
ST材の取付け	12-16
本体の葺き上げ	17-18
役物の取付け	19-31

1. 安全上の注意

現場の実情に合わせて適切な安全作業の心得をつくり、実行してください。



警告

死亡又は、重傷を負う可能性が想定される

1.正しい着装

- 屋根工事は高所作業です。作業時に支障ない身軽な作業服を着用し、保護具（ヘルメット、安全帯など）を着装してください。（高所作業のため落下事故を防止する措置をとること。）
- 2m以上の高所作業では、安全ベルト、命綱の装着が規定されています。

2.野地板の直接踏み抜きの禁止

- リフォームの場合は野地板の状況が悪いことがあるので、必ず足場板を仮置きして踏み抜き落下防止に努めてください。

3.雨天時の心得

- 雨天時や事前に降った雨や雪などで、屋根表面が濡れている場合は、滑りやすいのでご注意ください。

4.荷揚げ作業時の心得

- 吊り上げ作業中は、クレーンアームの特定半径内に立ち入らないよう警告すること。木毛セメント板下地の上に荷揚げする場合、踏み込み時の抜け落ちがおこらないよう足場板を設置してください。



注意

損害を負う又は、物的損害が発生する可能性が想定される

1.毎日のミーティング

- 作業規律の徹底と健康状態のチェック、および安全についての注意事項を毎日の作業前にミーティングで確認してください。

2.整理、整頓、標識の重視

- 公衆災害の防止措置に心掛けてください。

3.電動工具、一般工具の安全操作

- 漏電、感電防止及びこれらからの落下防止に心掛けてください。
※軒先や近接する部分に高圧電線がある場合、事前に電力会社へ連絡して事故が起きないように注意してください。（感電事故防止のため）

4.気象情報の重視

- 降雨、降雪、強風など気象の変化に対する情報にご注意ください。（雨が降った場合は工事を中止してください）



注意

商品保管・養生、保守管理・運搬・残材処理で事故発生が想定される

1.現場での保管

- 屋根材は化粧仕上げ材ですから、取付までは雨水などで濡れたり、汚れたりしないように養生してください。
- 屋根材は地面に直接置かないように保管してください。パレットを使用できない場合は角材などを用いて飼木してください。
- 屋根材本体及び付属品の荷置きは集中荷置きを避けてください。（変形する恐れがあります）
- 屋根材の荷崩れを起こさせないように梱包や荷置き方法に配慮してください。（表面への傷や剥離の原因になります）

2.養生、保守管理

- 足場を組む場合は屋根面に必ず養生板を敷いてください。
- 壁面の塗装、吹き付け作業に際しては、屋根面を必ずシートで養生してください。（シートをかける時、ケラバに釘を打たないでください。）
- 作業、足場から屋根面に飛び降りたり、物を落としたりすると破損を生じ、雨漏れなどの原因となりますので充分注意してください。
- ハンゴを掛ける場合には、当て木を使って滑らないように固定してください。又、作業は必ず二人で行ってください。

3.運搬

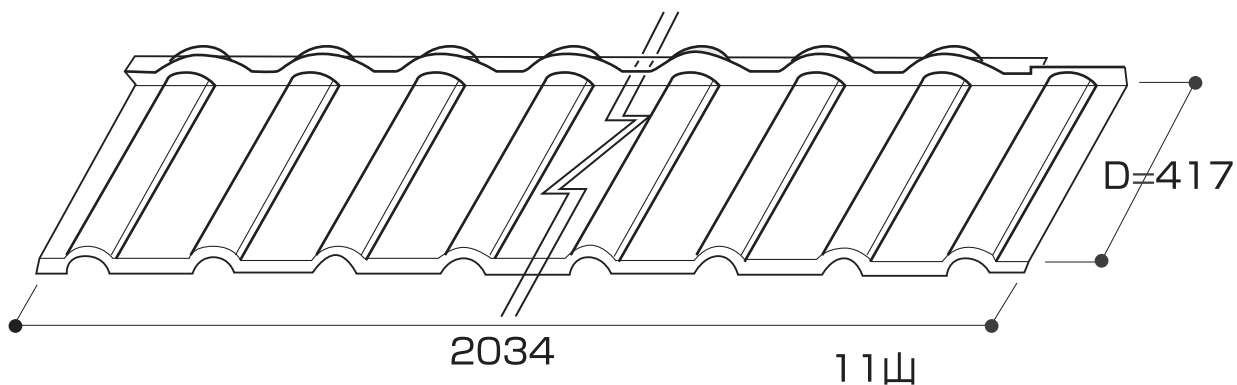
- 車両などで運搬する時は平積みにてしてください。
- 荷揚げ用具は労働安全衛生規則に準拠した物を使用してください。
- ナイロンスリングの幅は100mmを使用し、損傷がないか点検してください。ナイロンスリングで3点以上にして吊上げる場合、各ナイロンスリングの張力が均等になるように吊り点の位置やナイロンスリングの長さを調整して、成型品本体を絞ったり、折れたり、歪みが起こらないように吊上げてください。
- 吊上げる時は当て板などを用いて、ロープ掛けによる損傷を防いでください。

4.残材処理

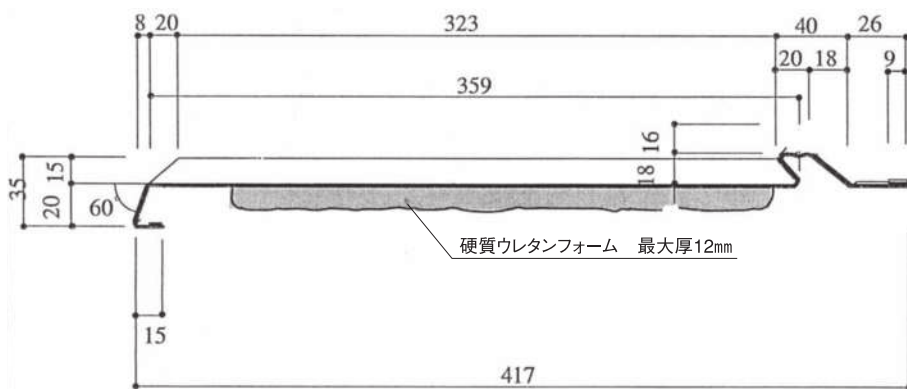
- 残材は『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』に基づき産業廃棄物として処理してください。

2. 製品仕様

■本体形状



●側面図

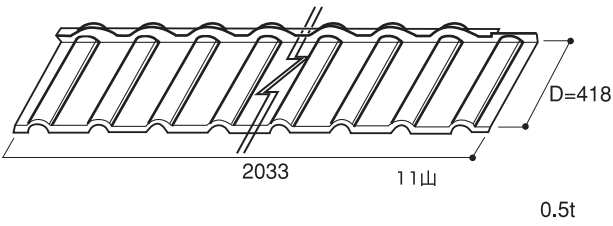
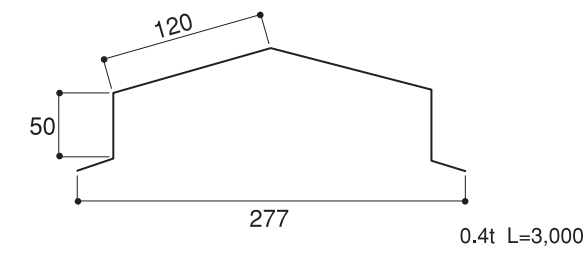
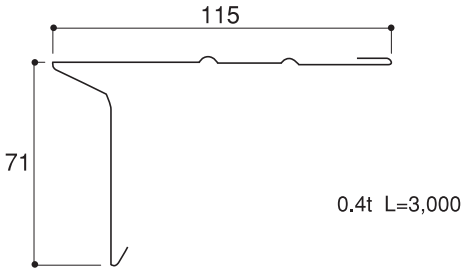
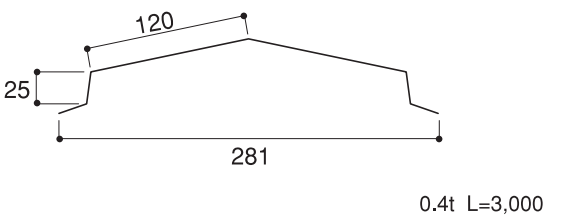
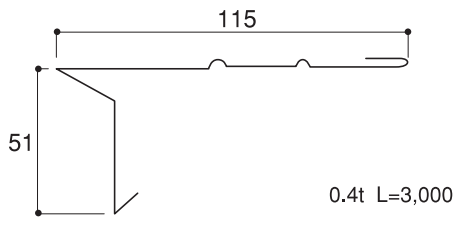
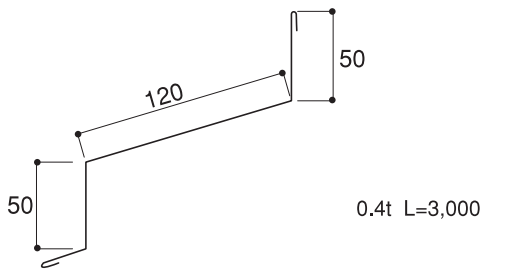
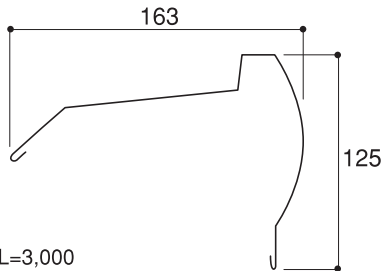
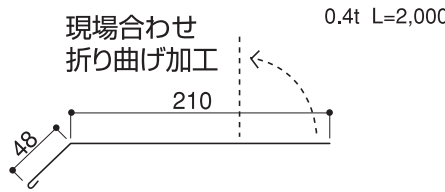
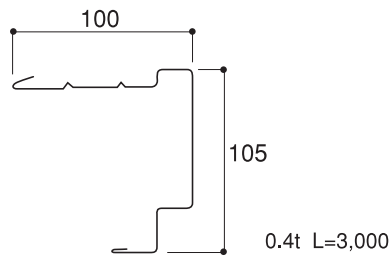
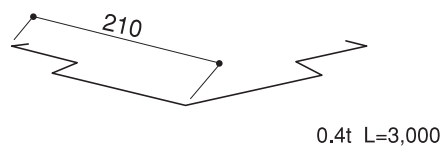


■標準仕様

材質	フッ素樹脂塗装 ガルバリウム鋼板
働き（幅×流れ）	1880mm×342mm
1枚当たりの重量	約4.0kg
単位面積当たりの本体枚数	約1.56枚/m ² （約5.13枚/坪）
単位面積当たりの重量	約6.26kg/m ² （約21kg/坪）
鋼板厚み	0.5mm
施工最低勾配	2.5寸以上
色調	ブラック、ブラウン、グリーン

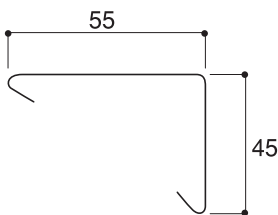
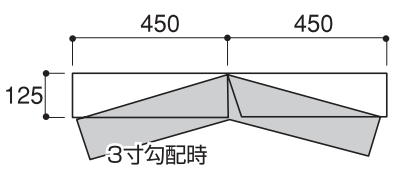
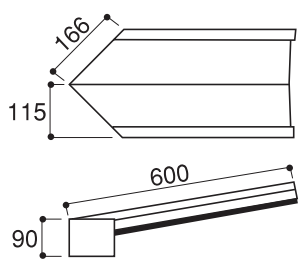
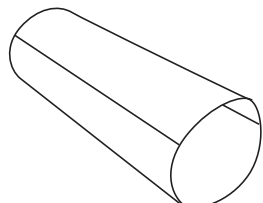
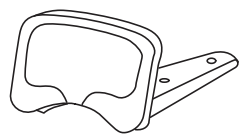
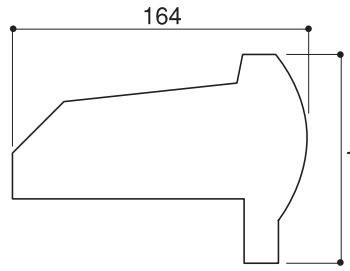
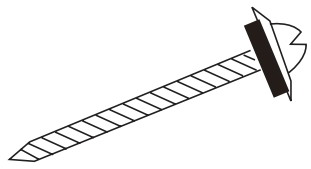
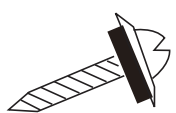
3. 使用部材

色品番:頭の4文字 CR00(ブラック)、CR01(ブラウン)、CR02(グリーン)

●本体瓦 CR0001/CR0101/CR0201 入数:6  0.5t	●棟包角型 CR0007/CR0107/CR0207 入数:5  0.4t L=3,000
●軒先唐草71 CR0003/CR0103/CR0203 入数:6  0.4t L=3,000	●降棟包角型 CR0008/CR0108/CR0208 入数:5  0.4t L=3,000
●軒先唐草51 CR0004/CR0104/CR0204 入数:6  0.4t L=3,000	●桁用水切 CR0009/CR0109/CR0209 入数:5  0.4t L=3,000
●けらば包 CR0005/CR0105/CR0205 入数:5  0.4t L=3,000	●妻用水切 CR0010/CR0110/CR0210 入数:5 現場合わせ 折り曲げ加工  0.4t L=2,000
●けらば包ST CR0006/CR0106/CR0206 入数:5  0.4t L=3,000	●谷樋 CR0011/CR0111/CR0211 入数:3  0.4t L=3,000

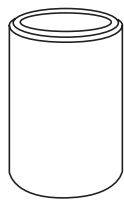
3. 使用部材

色品番:頭の4文字 CR00 (ブラック)、CR01 (ブラウン)、CR02 (グリーン)

●谷用アングル CR0012/CR0112/CR0212 入数:5  0.4t L=3,000	●けらば自在棟 CR0016/CR0116/CR0216 入数:5  3寸勾配時 勾配は現場合わせで切り欠き施工 0.4t
●降棟用捨水切 CR0002 入数:5  0.4t L=3,000	●降棟軒先コーナー CR0017/CR0117/CR0217 入数:4  0.4t
●コイルW914 CR0013/CR0113/CR0213 入数:1  塗装面内巻き 0.35t L=10m	●雪止金具 CR0018/CR0118/CR0218 入数:50  1.0t
●けらば包軒先化粧板(右) CR0014/CR0114/CR0214 入数:5 ●けらば包軒先化粧板(左) CR0015/CR0115/CR0215 入数:5  寸法図は(右) 0.4t	●ビス4×55 EF0025 (ブラック) EF0079 (ブラウン) CR0219 (グリーン) 入数:100  ●ビス4×19 EF0026 (ブラック) EF0080 (ブラウン) CR0220 (グリーン) 入数:100 

●補修液 CR0021/CR0121/CR0221

入数:1

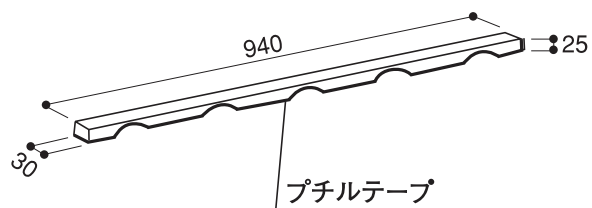


正味重量0.09kg

50cc

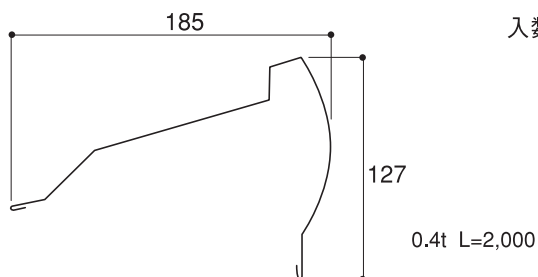
●止面戸（棟用） CR0301

入数:50



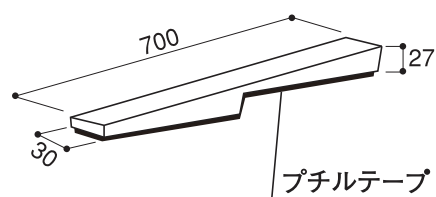
●片棟包 CR0022/CR0122/CR0222

入数:3



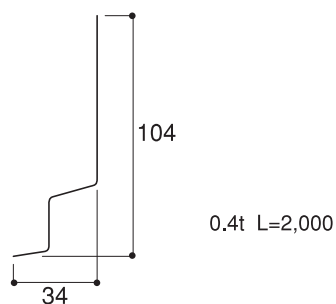
●止面戸（妻用） CR0302

入数:50



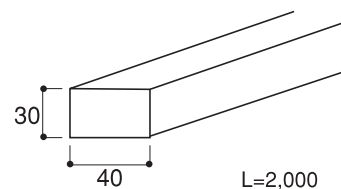
●片棟包ST CR0023/CR0123/CR0223

入数:3



●止面戸（谷・降棟用） CR0303

入数:20

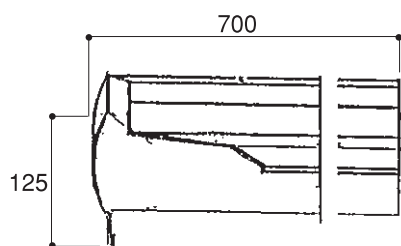


●片棟包コーナー（右）

CR0024/CR0124/CR0224 入数:1

●片棟包コーナー（左）

CR0025/CR0125/CR0225 入数:1

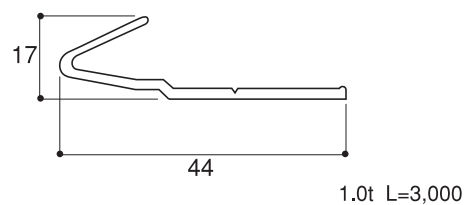


寸法図は（左）

0.4t

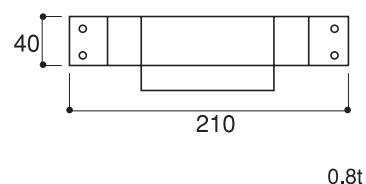
●軒先用アングル CR0304

入数:10



●調整用ピース CR0305

入数:10



4. 施工の準備

■施工上の心得

現場の実情に合わせて適切な施工を行ってください。



警告

死亡又は、重傷を負う可能性が想定される

1. 屋根上の物置禁止

- 葺き上げた屋根面には物を置かないでください。
ゴムアス防水シート又は、アスファルトルーフィング940以上の上に屋根材本体などを置くときは、滑り落ちないように固定してください。

2. 部材の管理

- 転落や部材の機能を損なう恐れがありますので、ケラバや棟部材の上には乗らないでください。



注意

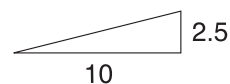
損害を負う又は、物的損害が発生する可能性が想定される

1. 捨て板へのビス・コースネジ打ち禁止

- 漏水の原因になりますので、捨て板部分には直接ビス・コースネジを打たないでください。軒先唐草、通しけらば谷樋、降棟用捨て水切にビス・コースネジを打つ場合はビス・コースネジの頭を必ずコーキング処理してください。

2. 施工できるのは2.5寸以上の勾配

- 屋根勾配は、2.5寸以上で施工してください。



3. サビ発生原因の防止

- 本体瓦の上で板金加工をする場合は、必ず養生した上で加工してください。
- 鉄板の切りくずや釘などの金属類は「もらいサビ」の原因になりますので、完全に取り除いてください。
- 本体瓦・板金部材の表面塗装に傷をつけた場合は、必ず補修塗料で処理してください。

5. 標準施工方法

《工事の手順》

下地づくり

- 瓦降ろし→構造用合板(12mm)貼り(日本瓦の場合)
- 必要に応じて構造用合板(12mm)貼り

アスファルトルーフィング貼り

- アスファルトルーフィング940以上を使用

墨出し・軒先桟木・縦桟木取付け

- 働き幅で墨出しを行う

軒先唐草・軒先用アングルの取付

けらば受け桟・けらば包STの取付

谷樋、降棟捨水切の取付

本体瓦の取付

棟、降棟のぬき板、桁用水切受け桟の取付

役物取付

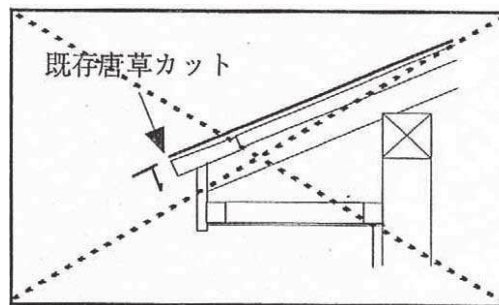
補修・清掃・検査

工事完了

5. 標準施工方法

《下地づくり》

- 軒先カット、ケラバカットは原則として行いません。
隣地の境界を侵す場合は行ってください。



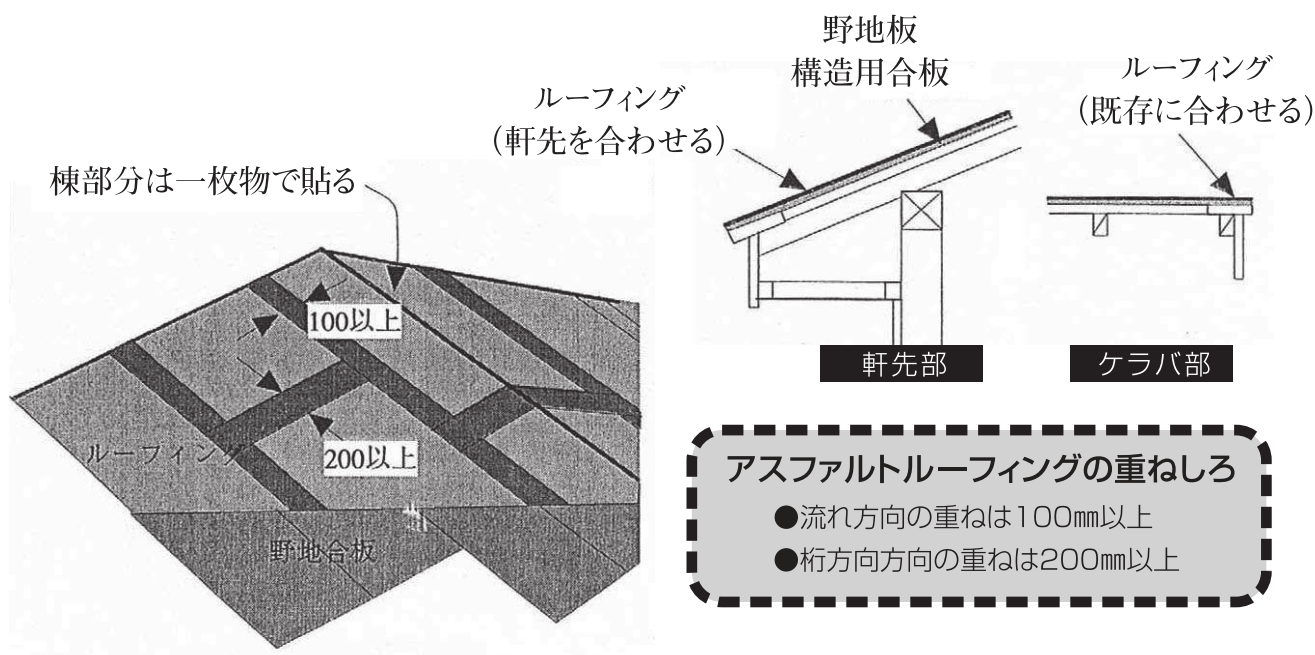
- 既存屋根材に合わせて、下記表の下地処理を行って下さい。

既存屋根	瓦降ろし	野地板葺き	アスファルトルーフィング葺き	縦桟木
和瓦 スレート瓦	◎	◎	◎	×
カラーベスト	×	×	◎	×
平トタン葺	×	×	×	×
波トタン葺	×	◎	◎	×
縦平葺	×	×	×	◎
瓦棒葺(真木有り)	×	×	×	×
瓦棒葺(真木無し)	×	×	×	◎

◎は施工、×は施工不要、※はケラバ側で瓦棒のない部分に補充取り付け。

《ルーフィング貼り》

- 和瓦、セメント瓦は撤去し、野地に構造用合板を貼り、その上にアスファルトルーフィングを貼ります。
- 波トタンは構造用合板を重ね貼りし、その上にアスファルトルーフィングを貼ります。
- カラーベストは両面テープを使用しアスファルトルーフィングを貼ります。
- 瓦棒（真木なし）、縦平葺の場合、既存垂木に縦桟木を添わせ3寸釘で斜め打ちして取り付けます。（次項d図参照）
- 瓦棒（真木あり）、縦平葺、平葺でサビ等で破れたり穴が開いている場合、防水テープで補修します。状態が著しくひどい場合は野地に構造用合板を貼り、アスファルトルーフィングを貼ります。

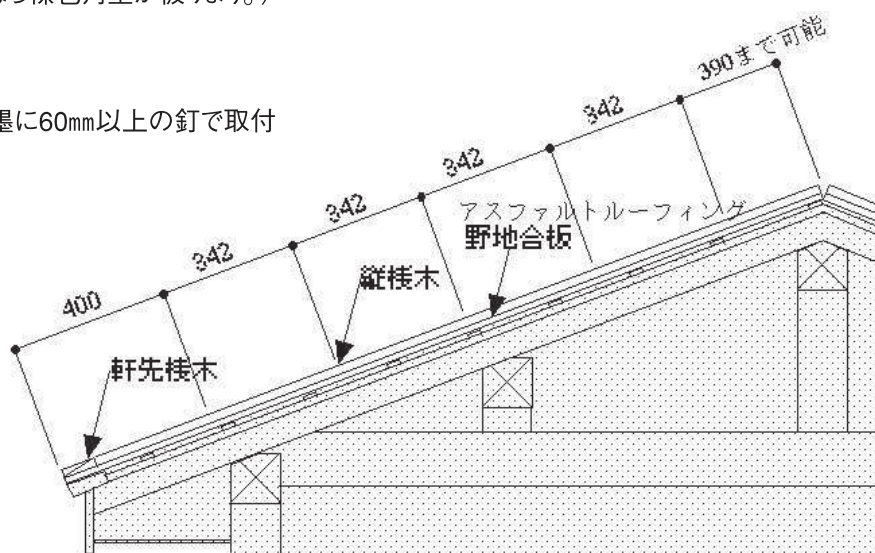


5. 標準施工方法

②縦桟木墨出し、取付け

- 1) 一段目の墨位置は、軒先桟木先端より400mm、二段目以降は342mmピッチで割付けて墨出しします。
(最上段の寸法は、最長で390mmまでなら棟包角型が被ります。)

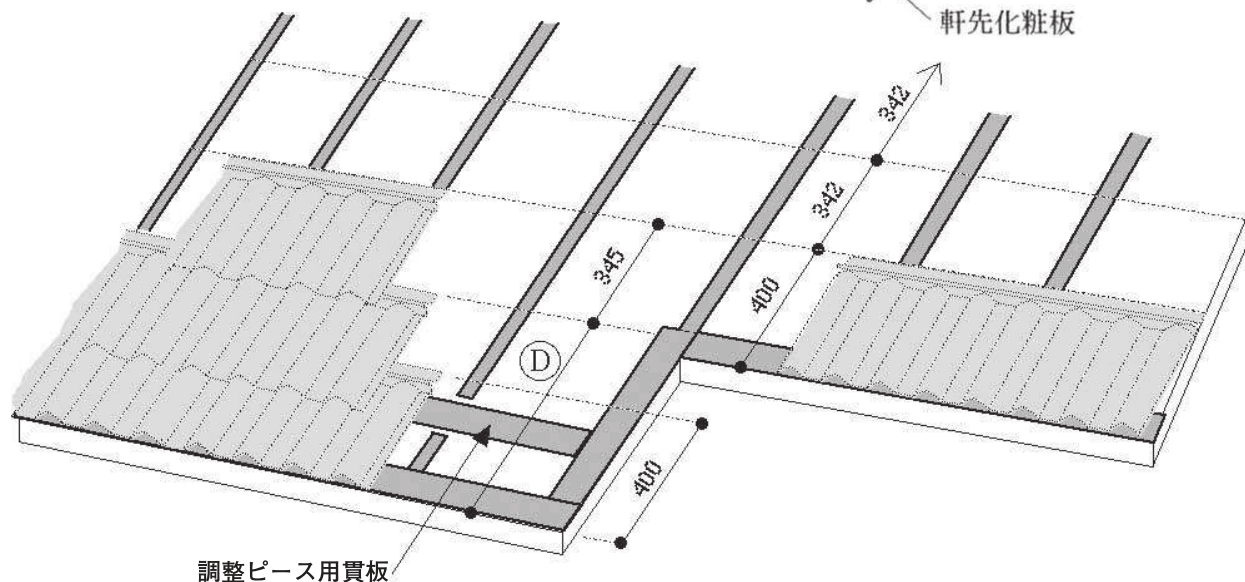
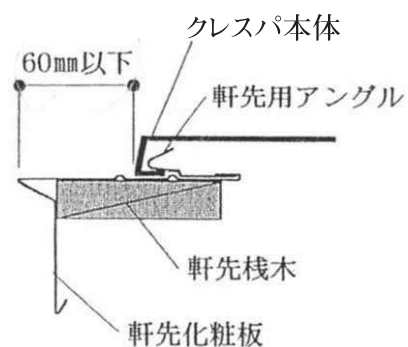
- 2) 縦桟木の釘打箇所は既存垂木の芯墨に60mm以上の釘で取付けます。



③軒先が段違いの場合

軒先が段違いの場合は、下段側の流れ1段目で本体葺き幅の調整をします。

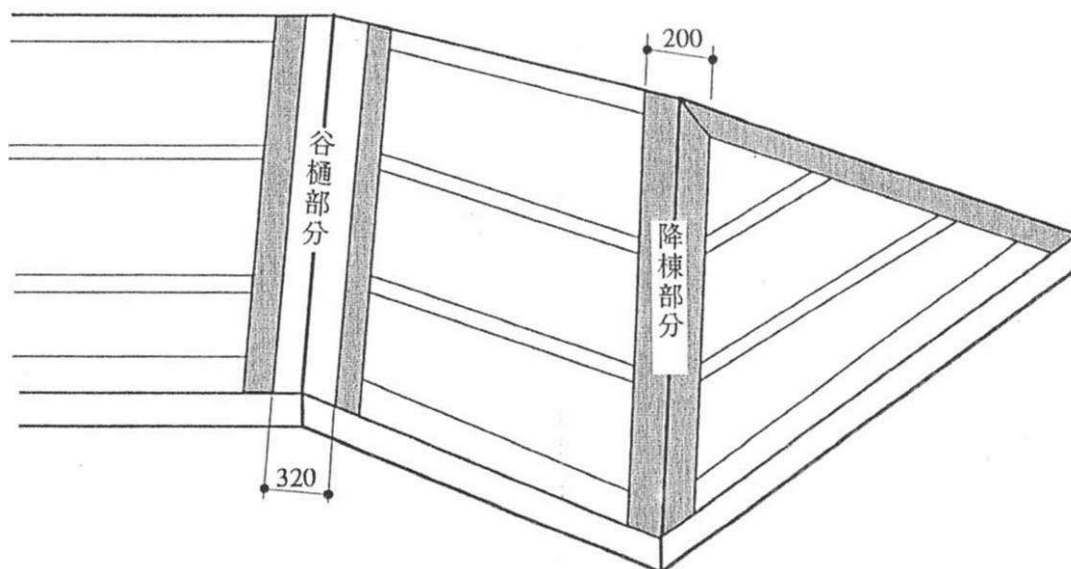
- 1) 各列の縦桟木を取付けます。
- 2) 上段1段目の墨位置より342mmで下げてきて下段1段目で調整します。
- 3) 下図Dの寸法を342mmで割った場合、軒先までの残りが70mm以下の時はそのまま張り上げます。70mm以上の場合は調整ピースを使用し、軒先で調整します。



5. 標準施工方法

④谷樋、降り棟の棧木取付け

- 谷樋、降り棟の棧木を取付けます。
- 谷樋棧木の取付け内寸法は320mm。
- 降り棟棧木の取付け外寸法は200mm。

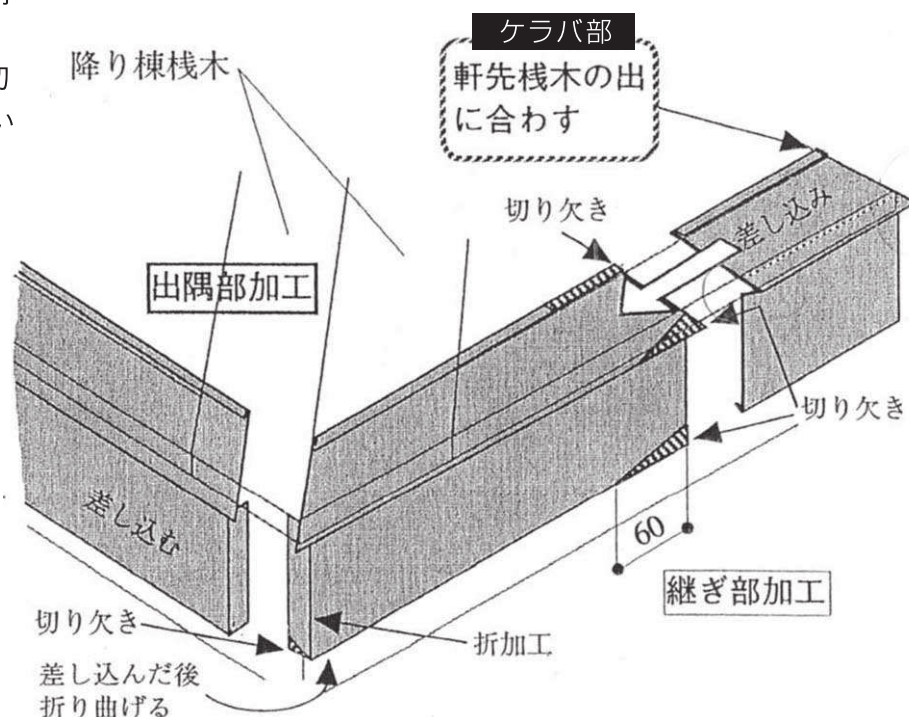


《ST材の取付け》

棧木の取付けた後、本体葺きの前にST材（軒先唐草51/71・降り棟捨水切・谷樋・けらば包ST・片棟包ST・軒先用アングル）を取付けます。

①軒先唐草51/71の取付け

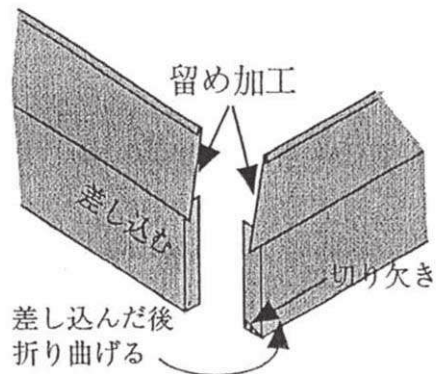
- 出隅部は軒先唐草の上部を切り込み、切り欠き曲げ加工をして取付けます。
- 継ぎ部は下側になる軒先唐草を切り込み、十分に差し込み通りが良いか確認して取付けます。
- ケラバ部は軒先棧木の出面に合わせます。



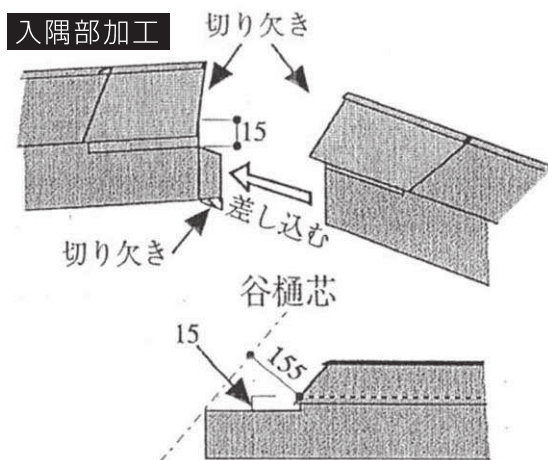
5. 標準施工方法

●出隅および入墨部は、合わせ部を下图のように加工して取付けます。

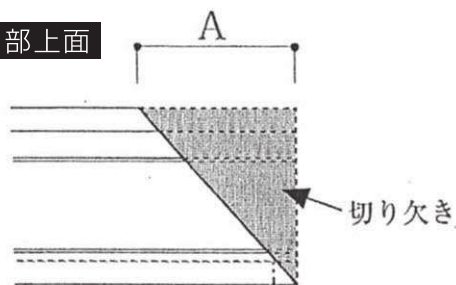
出隅部加工



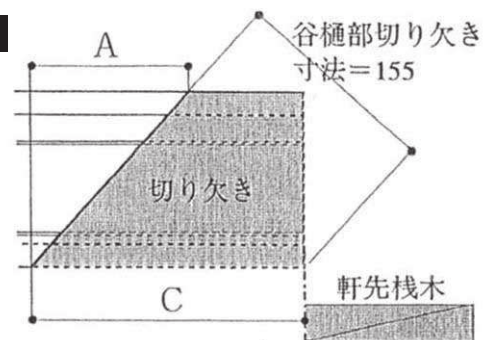
入隅部加工



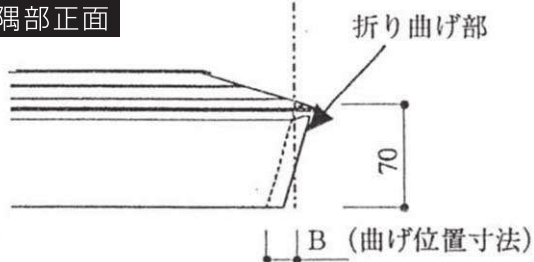
出隅部上面



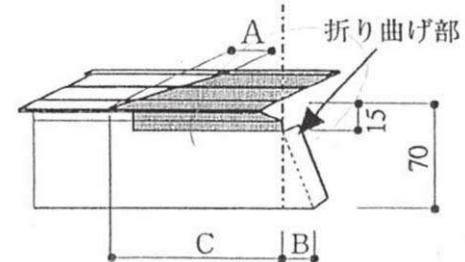
入隅部上面



出隅部正面



入隅部正面



■屋根勾配による加工寸法

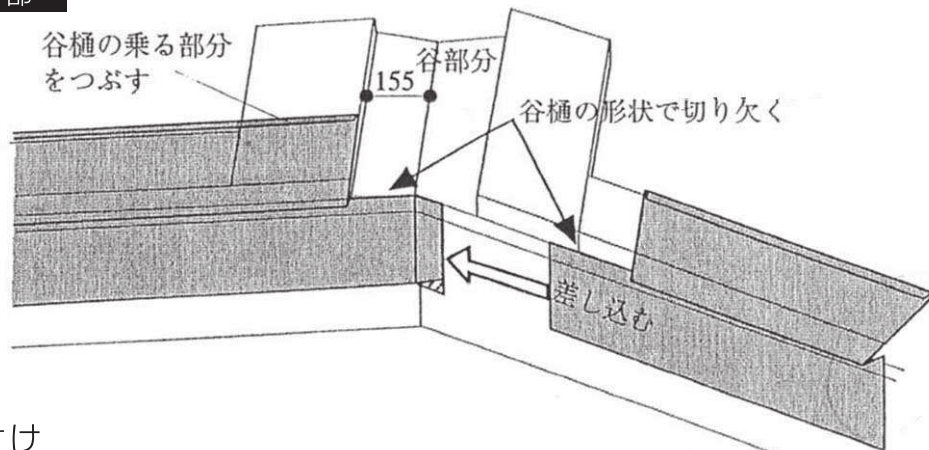
屋根勾配	A	B	C	屋根勾配	A	B	C
1 寸	1 1 4.4 mm	6.7 mm	2 3 3.5 mm	6 寸	9 8.7 mm	3 5.0 mm	2 1 7.0 mm
1 寸 5 分	1 1 3.7 mm	1 0.0 mm	2 3 3.0 mm	6 寸 5 分	9 6.4 mm	3 7.0 mm	2 1 4.5 mm
2 寸	1 1 2.8 mm	1 3.3 mm	2 3 2.0 mm	7 寸	9 4.2 mm	3 9.0 mm	2 1 2.0 mm
2 寸 5 分	1 1 1.6 mm	1 6.5 mm	2 3 0.5 mm	7 寸 5 分	9 2.0 mm	4 0.8 mm	2 1 0.5 mm
3 寸	1 1 0.2 mm	1 8.9 mm	2 2 9.0 mm	8 寸	8 9.8 mm	4 2.4 mm	2 0 8.0 mm
3 寸 5 分	1 0 8.5 mm	2 2.4 mm	2 2 7.0 mm	8 寸 5 分	8 7.6 mm	4 4.0 mm	2 0 6.0 mm
4 寸	1 0 6.8 mm	2 5.2 mm	2 2 5.5 mm	9 寸	8 5.5 mm	4 5.5 mm	2 0 4.0 mm
4 寸 5 分	1 0 4.9 mm	2 7.9 mm	2 2 4.0 mm	9 寸 5 分	8 3.4 mm	4 6.8 mm	2 0 2.0 mm
5 寸	1 0 2.8 mm	3 0.4 mm	2 2 1.5 mm	1 0 寸	8 1.3 mm	4 8.0 mm	2 0 0.5 mm
5 寸 5 分	1 0 0.7 mm	3 2.8 mm	2 1 9.0 mm				

5. 標準施工方法

谷樋部は、軒先唐草51/71を必ず先に取付けます。

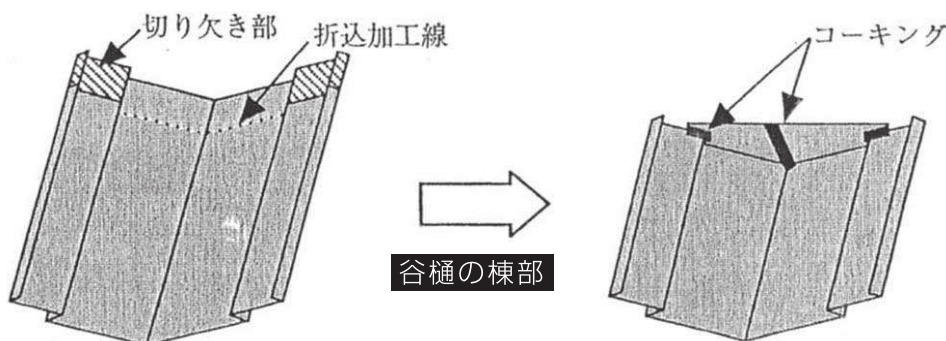
●谷樋部は、軒先の上部を谷樋下部の形状に合わせて切り欠き加工をし、差し込んで取付けます。

谷 樋 部



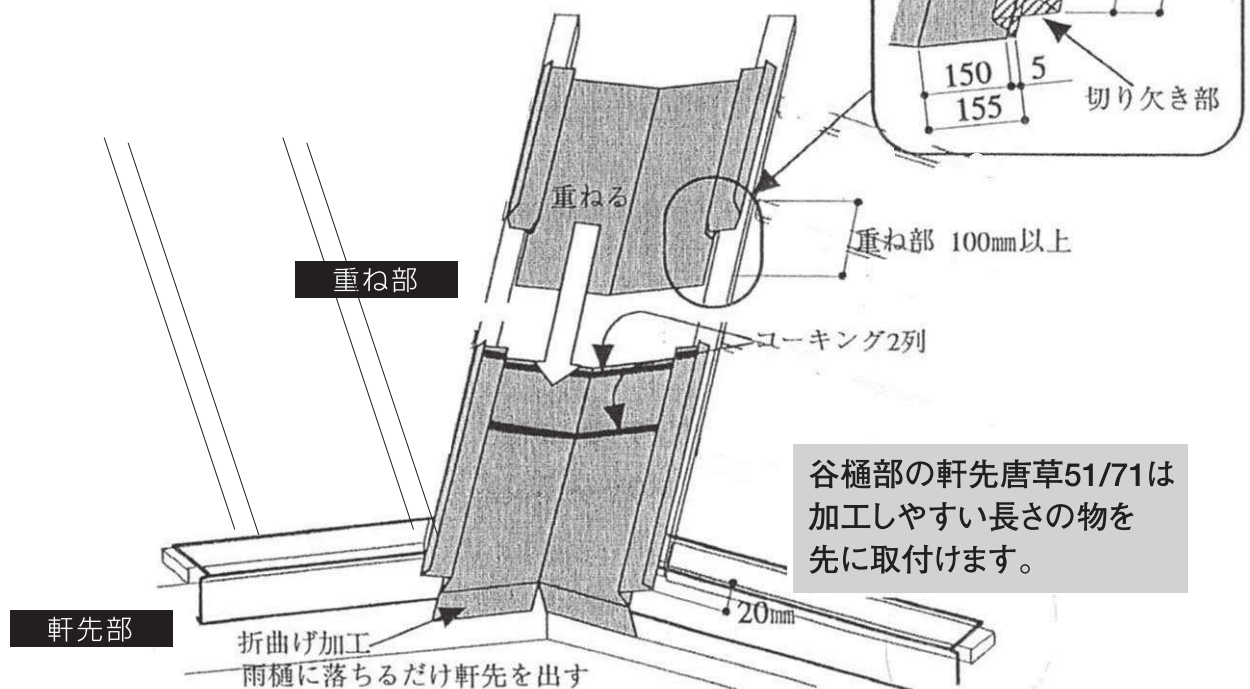
②谷樋の取付け

1) 谷樋の棟部谷樋を箱型に加工して取付け、切り欠き部にコーキングをします。



2) 継ぎ部の重ねしろは必ずコーキング処理をします。

3) 軒先部は折り曲げ加工し、雨樋に合わせて軒先の出を調整します。

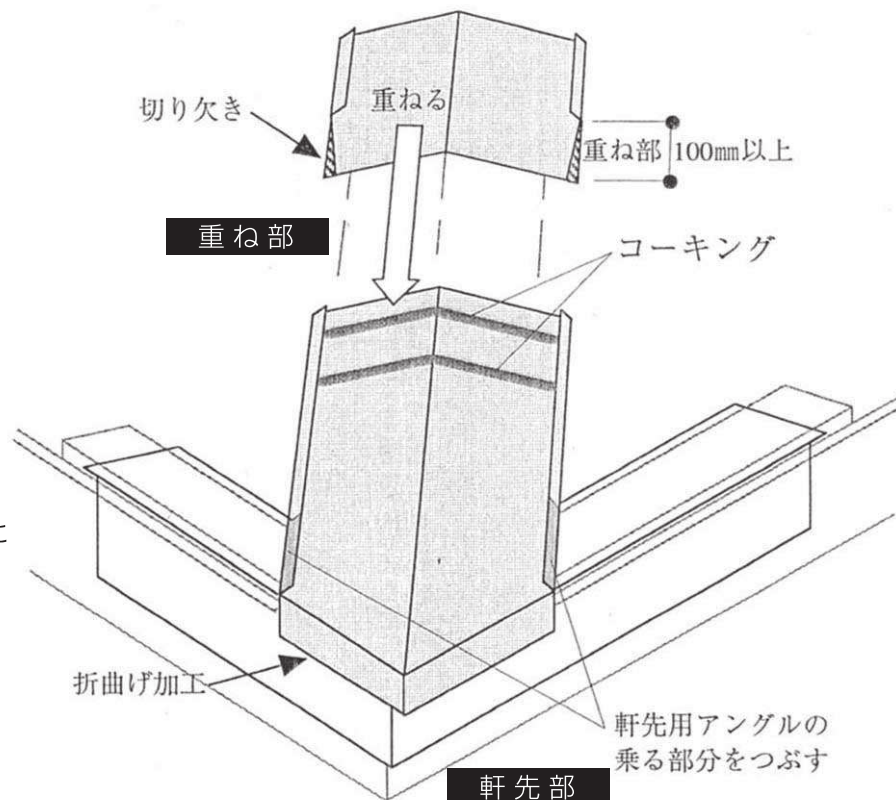


谷樋部の軒先唐草51/71は加工しやすい長さの物を先に取付けます。

5. 標準施工方法

③降棟用捨て水切の取付け

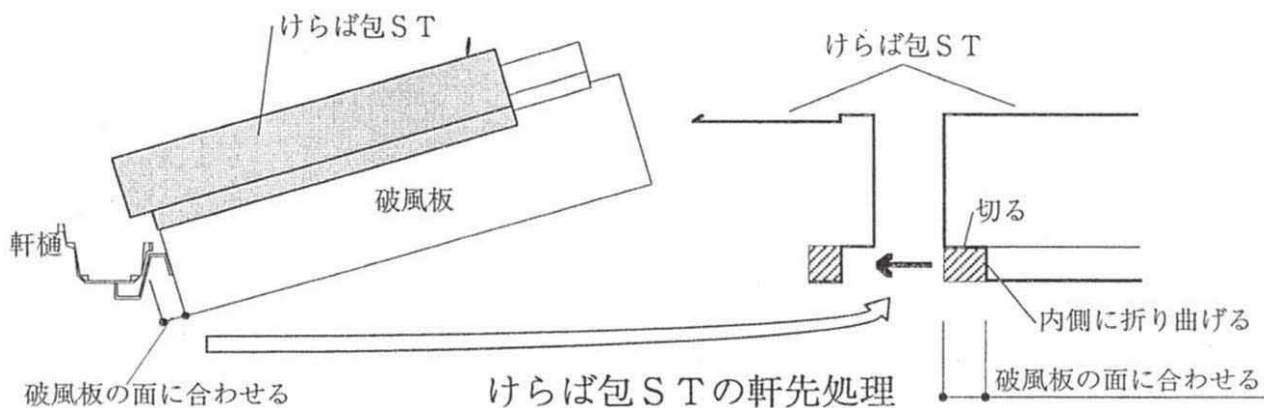
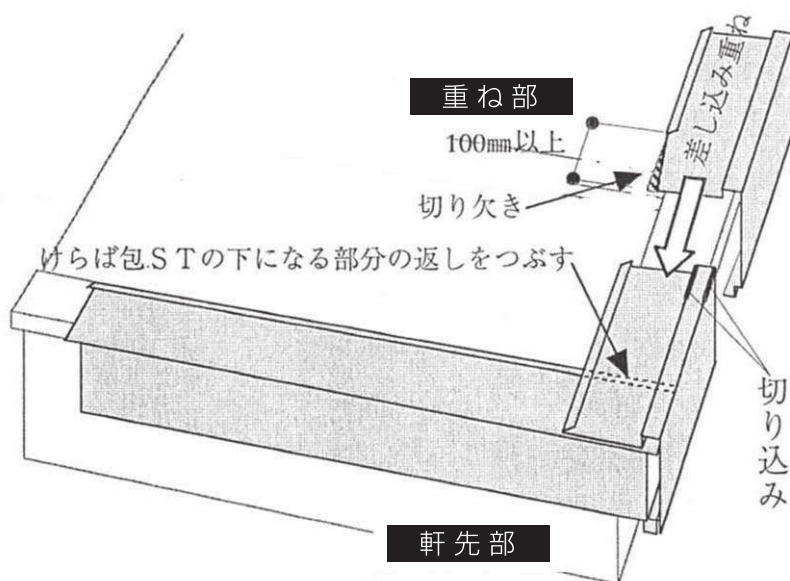
- 1) 継ぎ部の重ねしろは切り欠き、100mm以上重ねて取付けます。



- 2) 軒先部は折り曲げ加工し雨樋に合わせて軒の出を調整します。

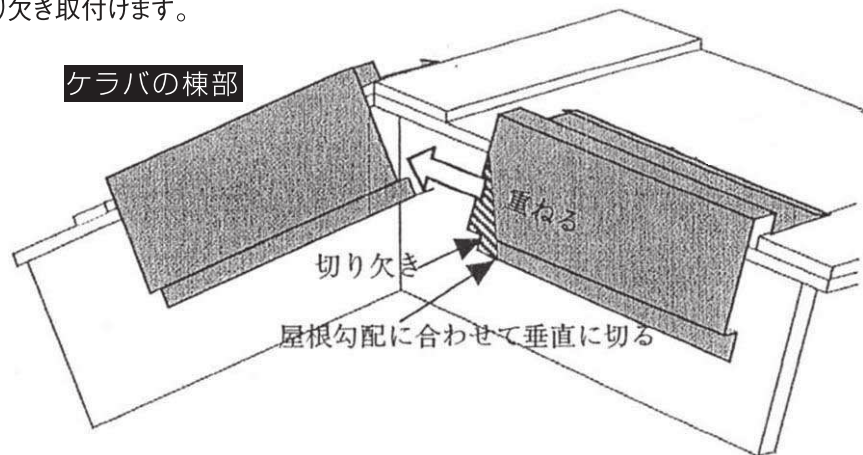
④けらば包STの取付け

- 1) 重ね部は切り欠きをして100mm以上し込み、通りを確認して取付けます。
- 2) 軒先部は軒先部材の出に合わせて付けます。



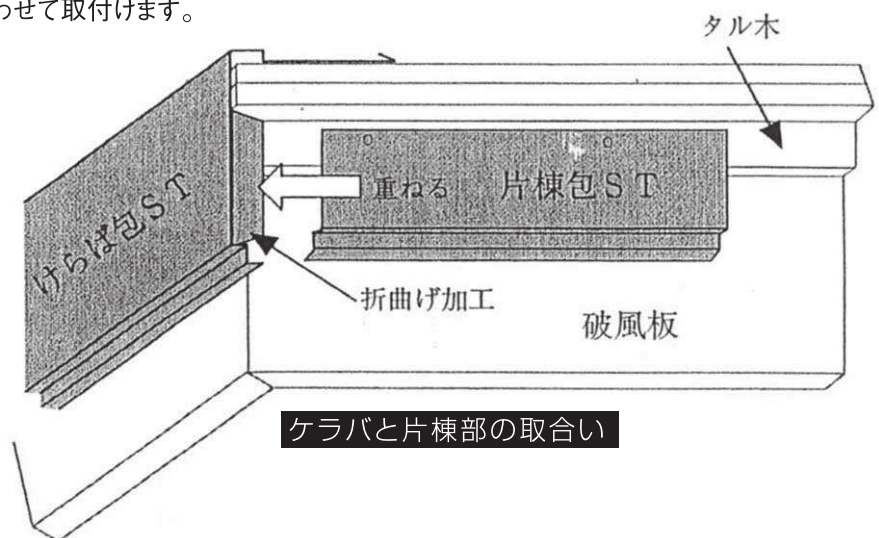
5. 標準施工方法

3) 棟部は重ねる部材を垂直に切り欠き取付けます。



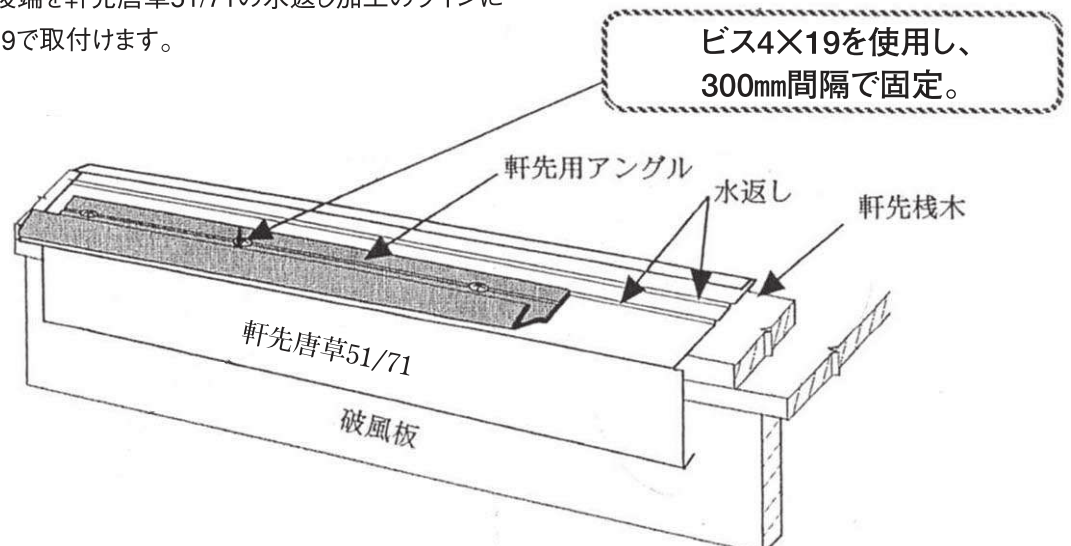
⑤ 片棟包STの取付け

- 1) 下地材として垂木を取付けます。
- 2) コーナー部はけらば包STを垂木面で曲げ加工します。
- 3) けらば包STに片棟包STの端を合わせて取付けます。



⑥ 軒先用アングルの取付け

- 軒先用アングルの後端を軒先唐草51/71の水返し加工のラインに合わせてビス4×19で取付けます。

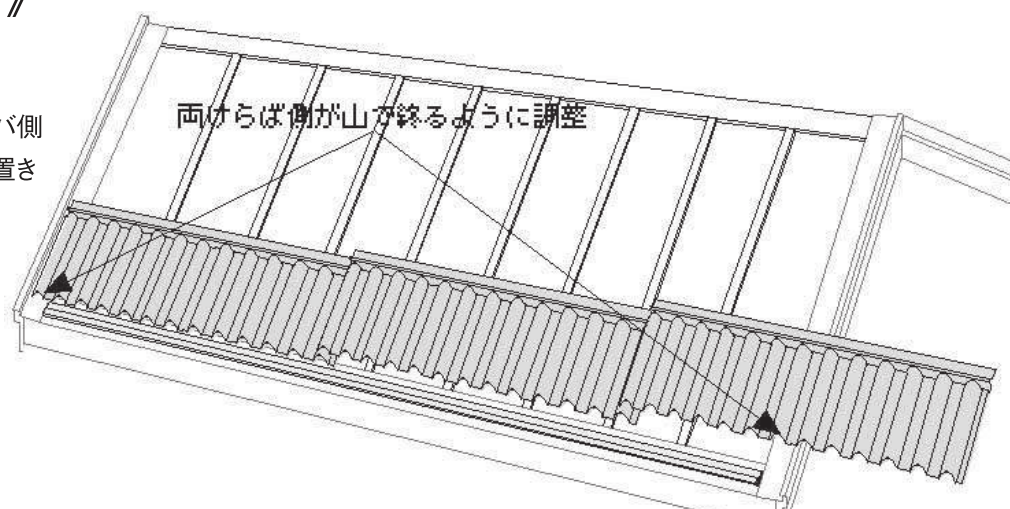


5. 標準施工方法

《本体の葺き上げ》

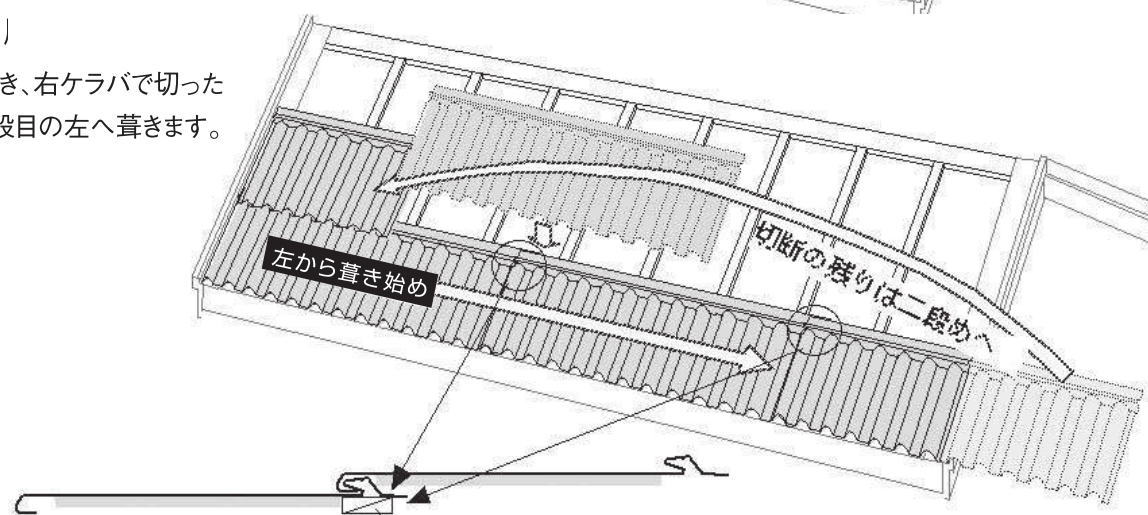
① 横割付け

- 本体の横割付けは両ケラバ側が山で終るよう、本体を仮置き等して調整します。



② 葺き上げ順

- 左から順に葺き、右ケラバで切った残り本体は2段目の左へ葺きます。

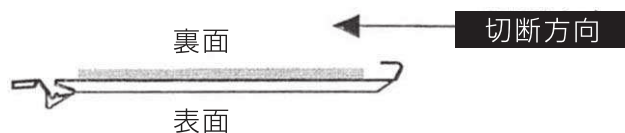


横嵌合部に胴縁を入れ、釘又はビスで止めます。(長さ250mm程度) 1枚葺いたら胴縁を取付け、次の本体を葺きます。



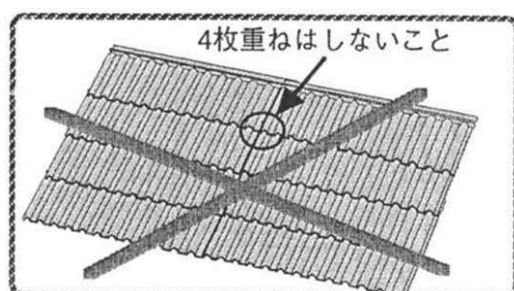
注意

本体の切断は、必ず裏面を上にして軒先側から切断すること。



注意

4枚重ね禁止。必ず千鳥葺きで取付ける。



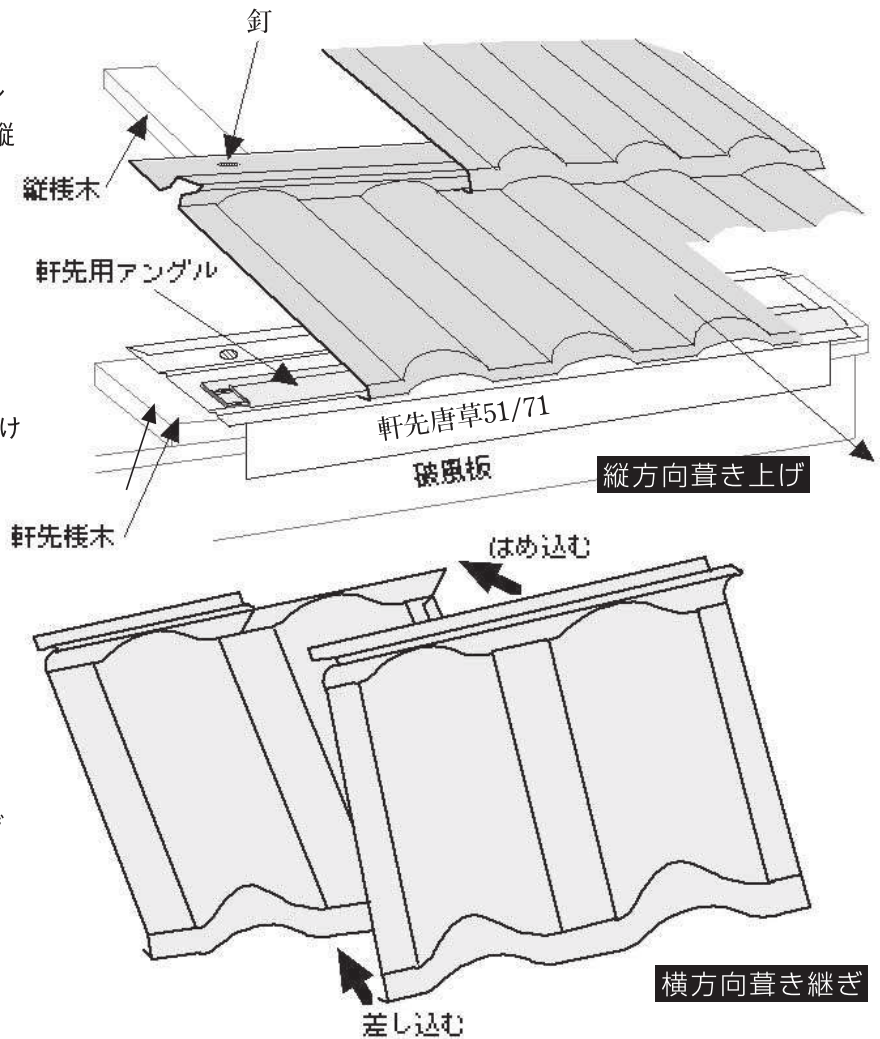
5. 標準施工方法

③ 本体の取付け

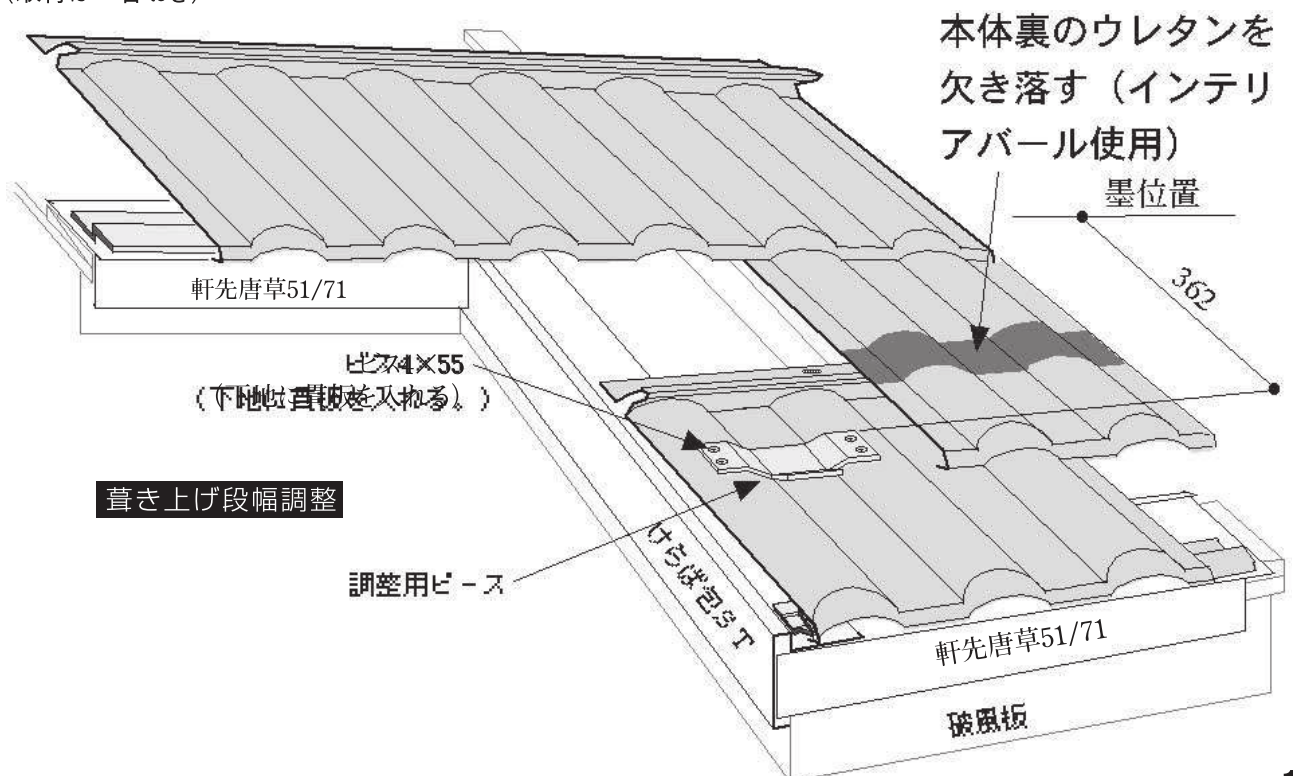
1) 葺き始めは本体の軒先用アングルに本体の前部を引き掛けて、後部を縦桟木に釘で取付けます。

2) 2段目以降は前段の後部にひっかけて取付けます。

3) 横方向の重ねは山重ねです。前部をひっかけて差し込み、引上げてしっかりはめ込みます。



● 段幅の調整は調整用ピースを下段部2段目の墨位置より362mm下方向本体谷部に、ビス4×55で取付けます。
(取付は一谷おき)

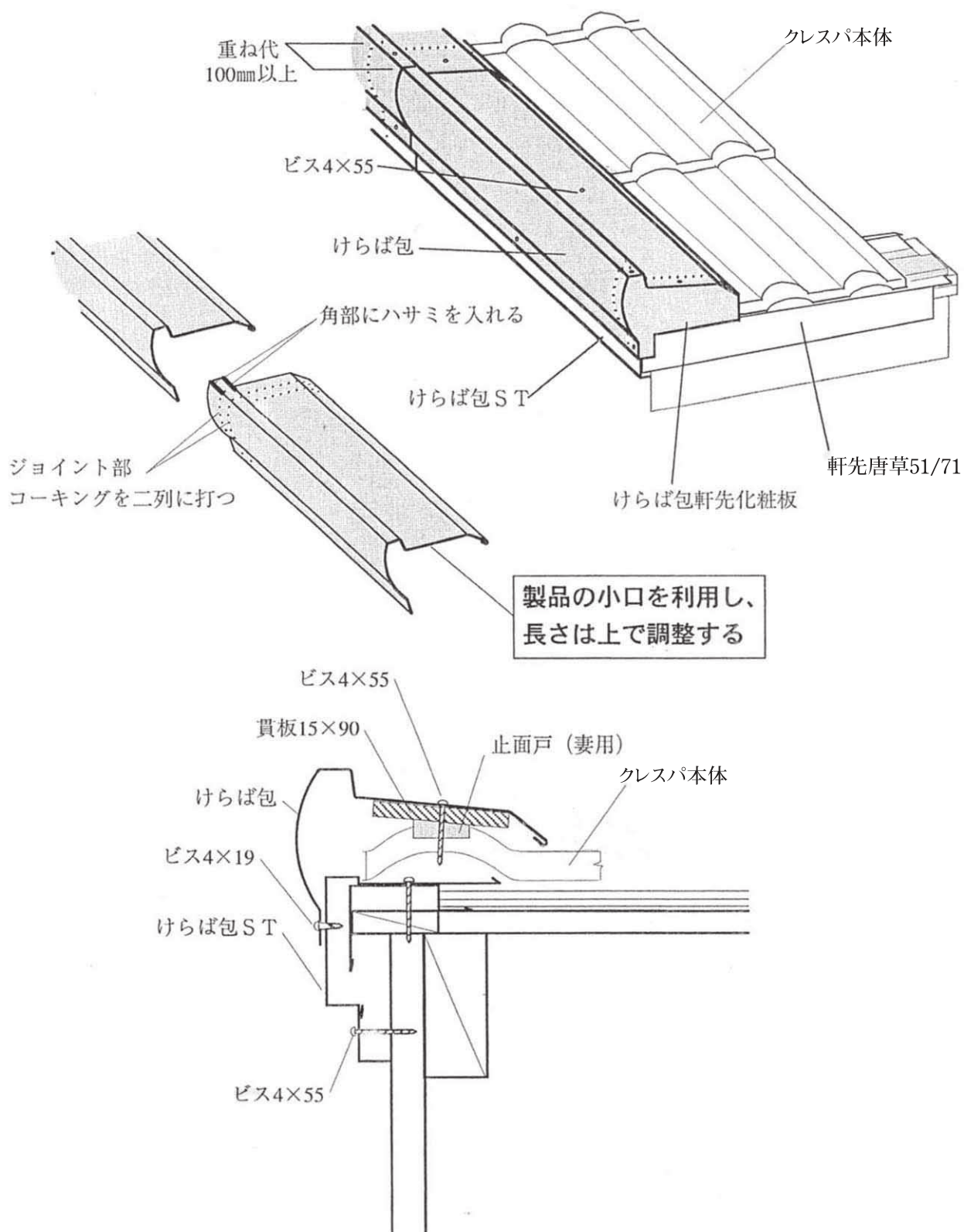


5. 標準施工方法

《役物の取付け》

① けらば包の取付け

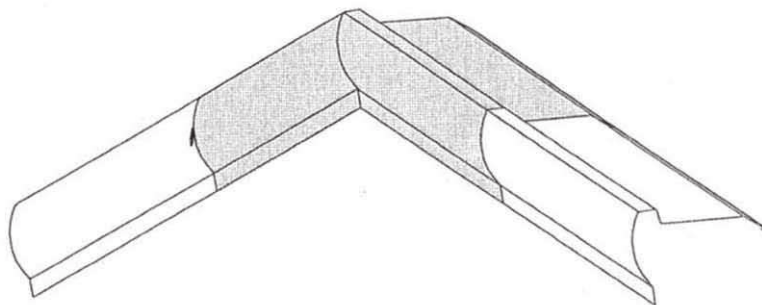
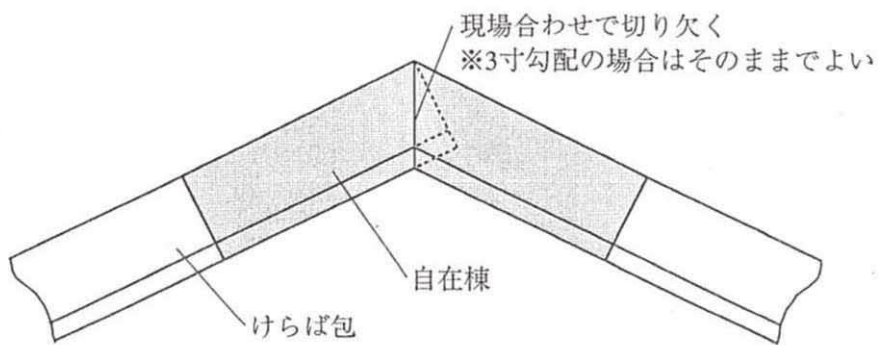
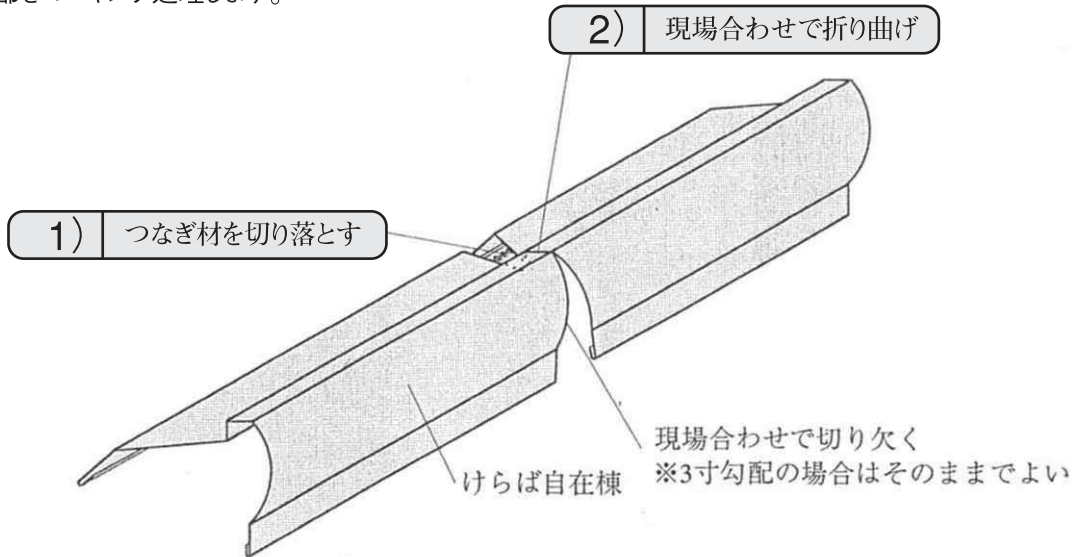
●ジョイント部分は図のようにコーキングを2列打ち、重ねしろ100mm以上でジョイントします。



5. 標準施工方法

②自在棟の取付け

- 1) R部にあるつなぎ材を切り落とします。
- 2) 上部を現場合せで折り曲げます。
- 3) 重ね部をコーキング処理します。



5. 標準施工方法

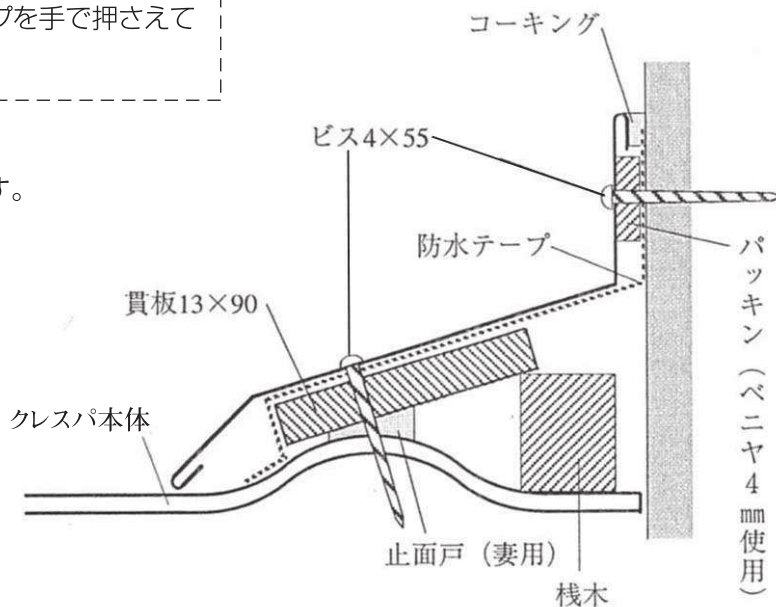
③妻用水切の取付け（2階壁との取合い）

- 1) 止面戸（妻用）と貫板をビス4×55で固定し、その上に防水テープをすき間なく貼ります。

テープがよく接着するよう、あらかじめ接着する面の汚れを拭き取ってください。テープ貼りは、テープを手で押さえて確実に接着させてください。

- 2) 防水テープ処理した後、妻用水切を取付けます。

パッキン材としてベニヤ4mmを右図のように取付け、水切上部と壁との接着面をコーキング処理します。



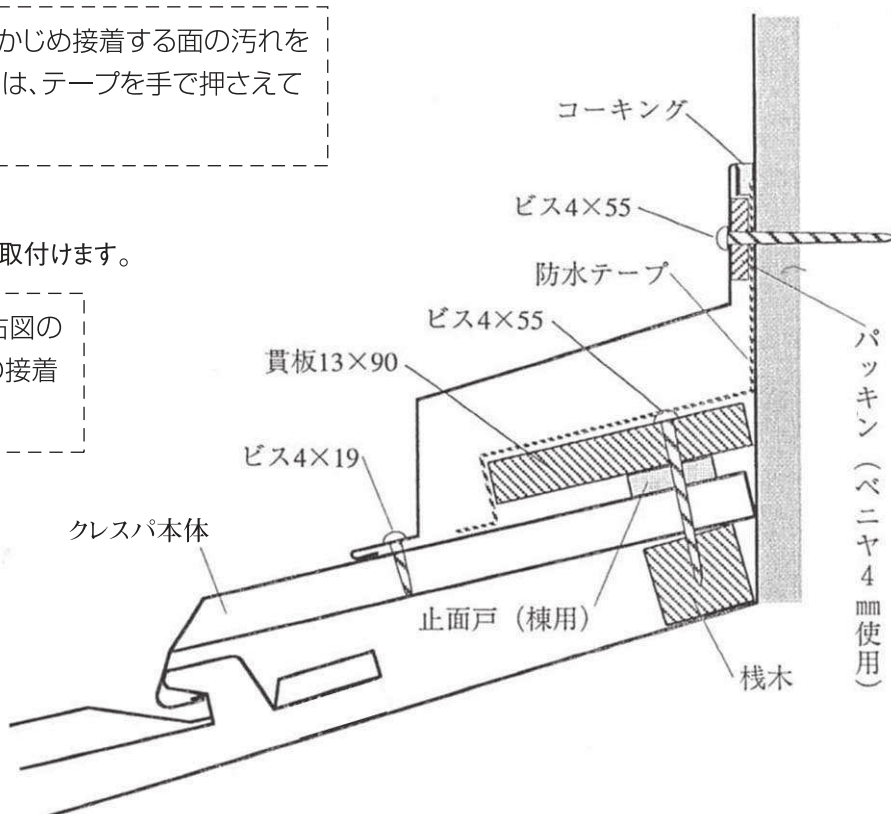
④桁用水切の取付け（2階壁との取合い）

- 1) 止面戸（棟用）と貫板をビス4×55で固定し、その上に防水テープをすき間なく貼ります。

テープがよく接着するよう、あらかじめ接着する面の汚れを拭き取ってください。テープ貼りは、テープを手で押さえて確実に接着させてください。

- 2) 防水テープ処理した後、桁用水切を取付けます。

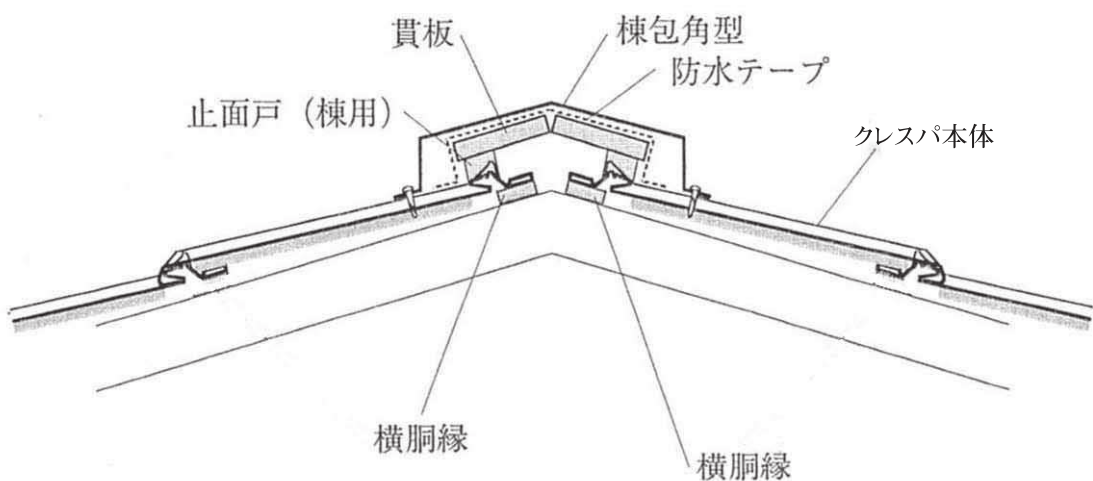
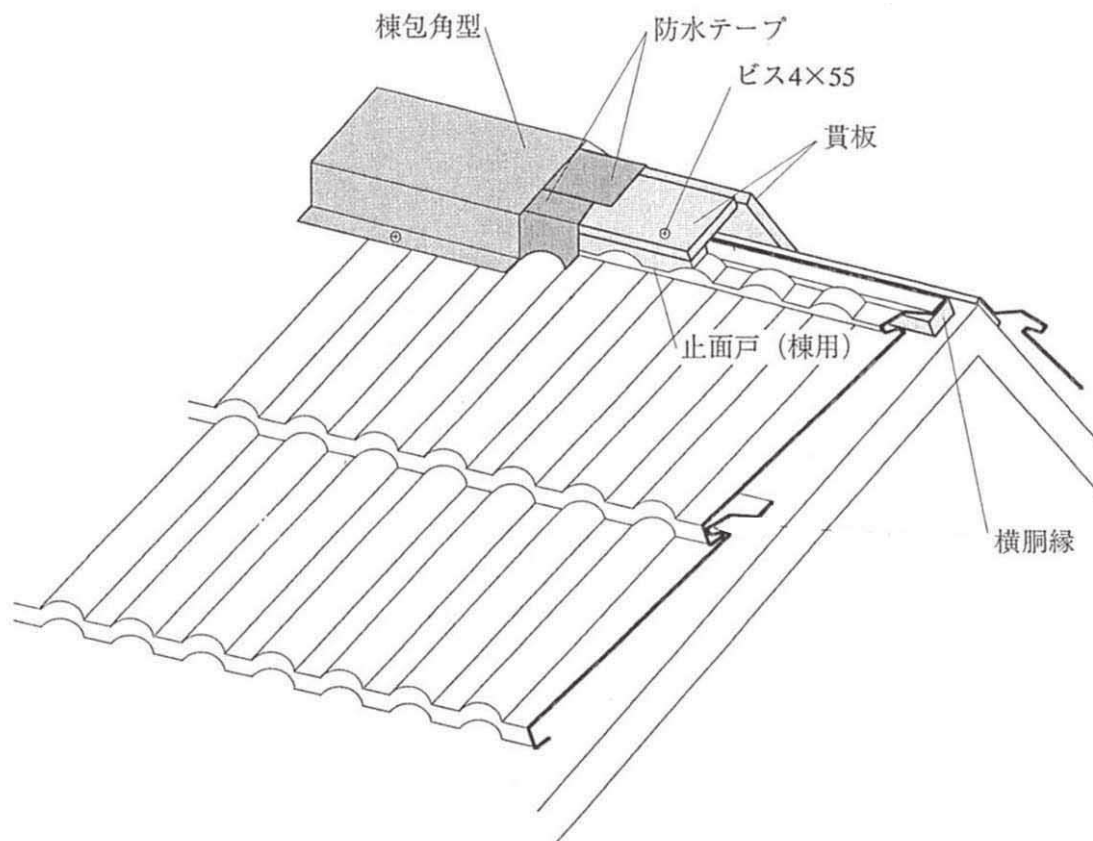
パッキン材としてベニヤ4mmを右図のように取付け、水切上部と壁との接着面をコーキング処理します。



5. 標準施工方法

⑤ 棟包角型の取付け（クレスパ本体が棟で終る場合）

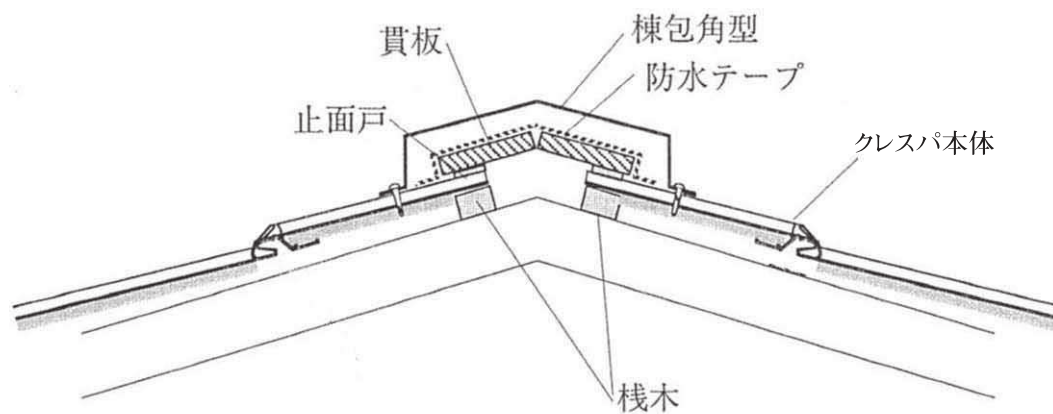
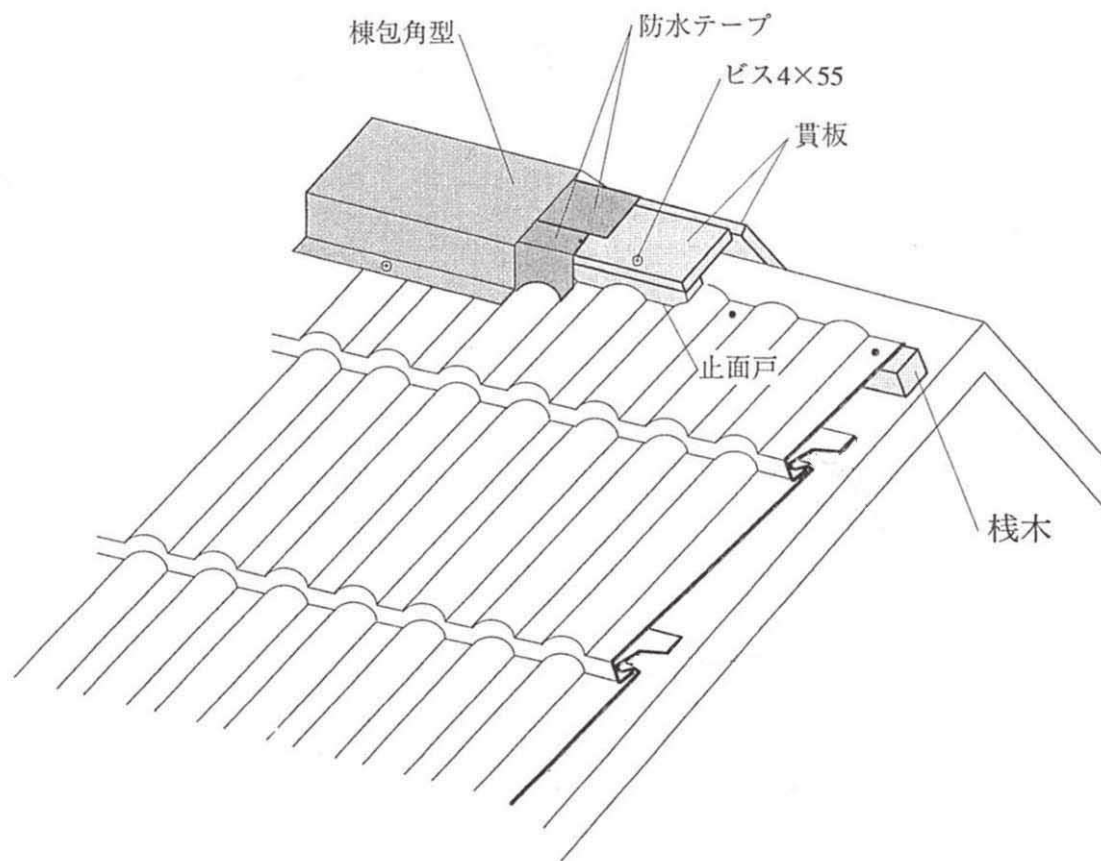
- 1) クレスパ本体を棟まで葺き上げ、止面戸（棟用）を貼り、上から貫板で押さえビス4×55で固定します。
- 2) 貫板の上に防水テープを貼ります。
- 3) 栈木等木部は釘で固定し、板金役物はビス4×19で固定します。



5. 標準施工方法

⑥ 棟包角型の取付け（クレスパ本体が棟で終わらない場合）

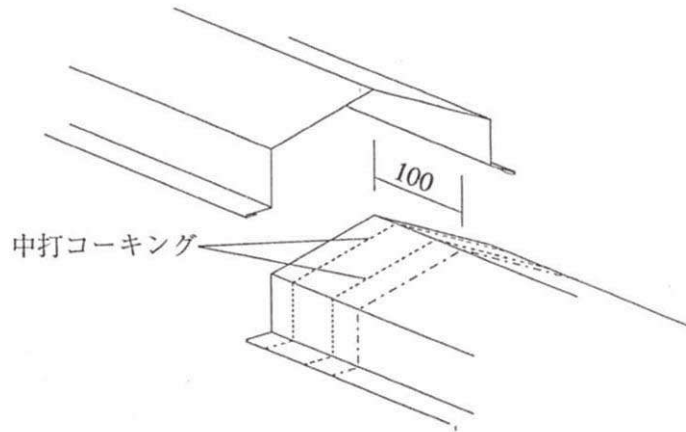
- 1) クレスパ本体の後端に高さ調整の栈木を取付けます。
- 2) クレスパ本体を棟まで葺き上げ、止面戸（棟用）を貼り、上から貫板で押さえビス4×55で固定します。
- 3) 貫板の上に防水テープを貼ります。
- 4) 栈木等木部は釘で固定し、板金役物はビス4×19で固定します。



5. 標準施工方法

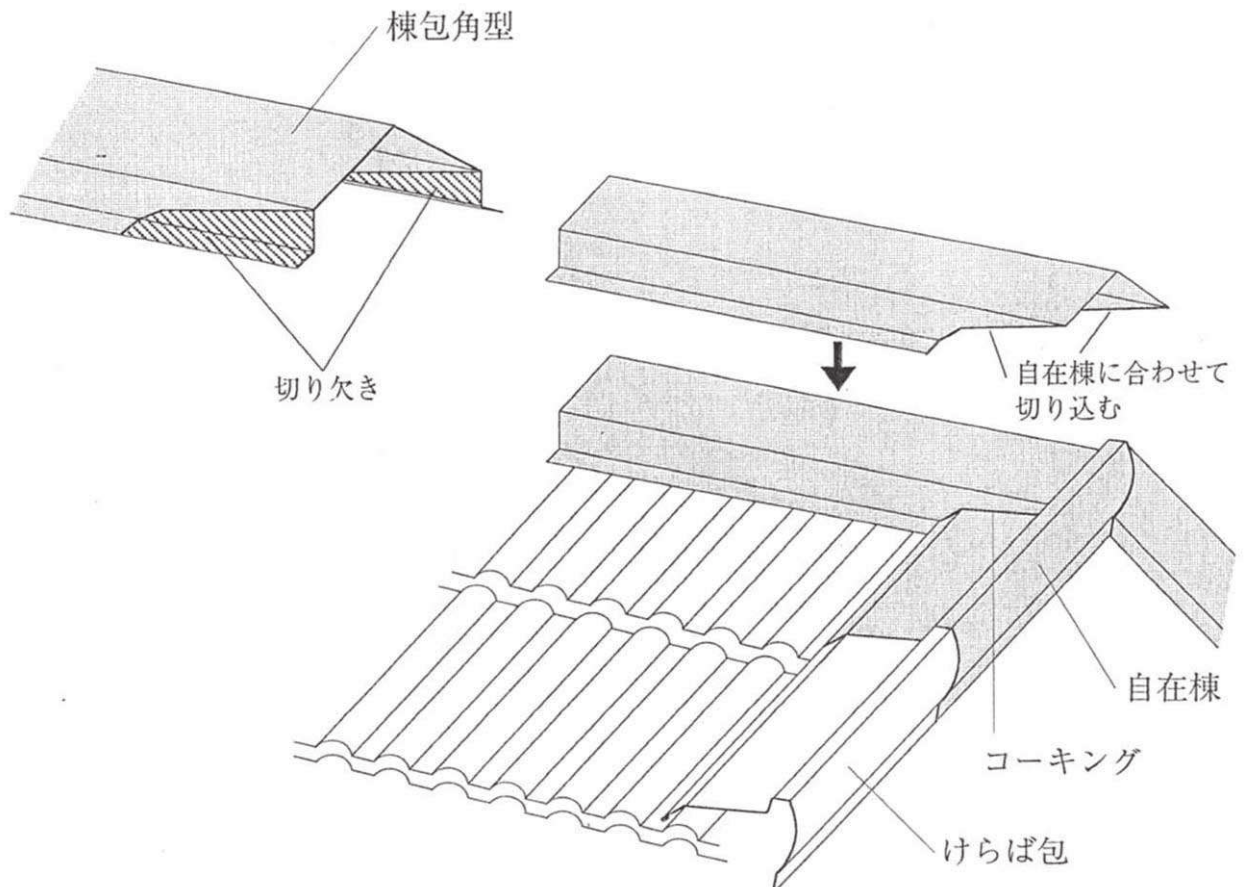
⑦ 棟包角型の重ね部

●棟包角型の重ね部は、中打コーキング処理して100mm以上重ねます。



⑧ 棟包角型と自在棟の取合い

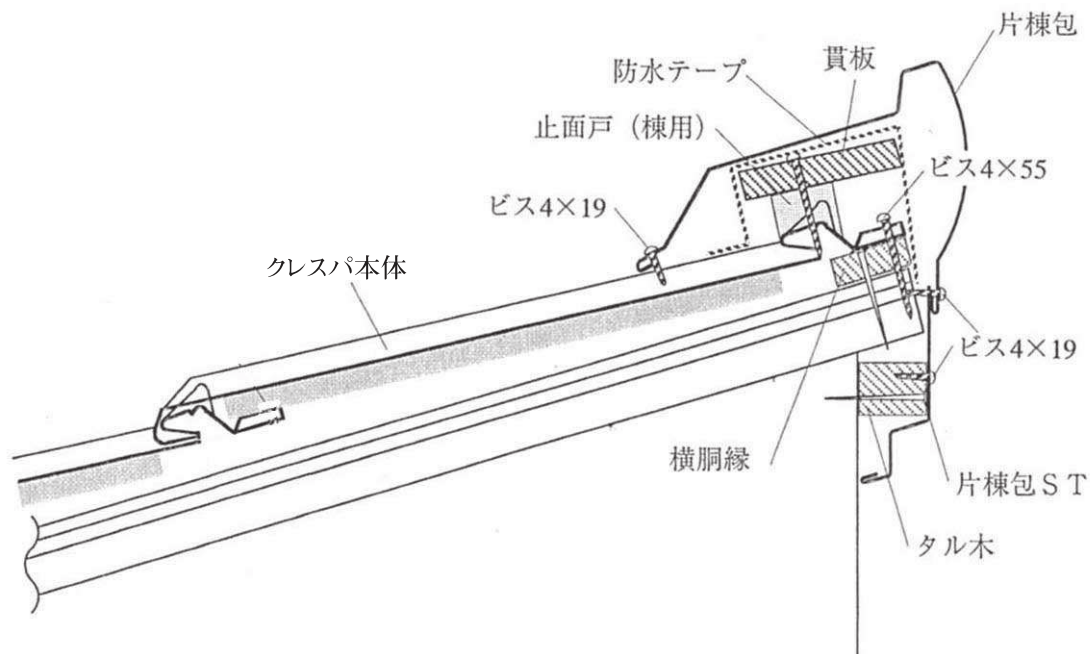
- 1) 棟包角型を自在棟に合わせて切り込み加工して取付けます。
- 2) 取合い部をコーキング処理します。



5. 標準施工方法

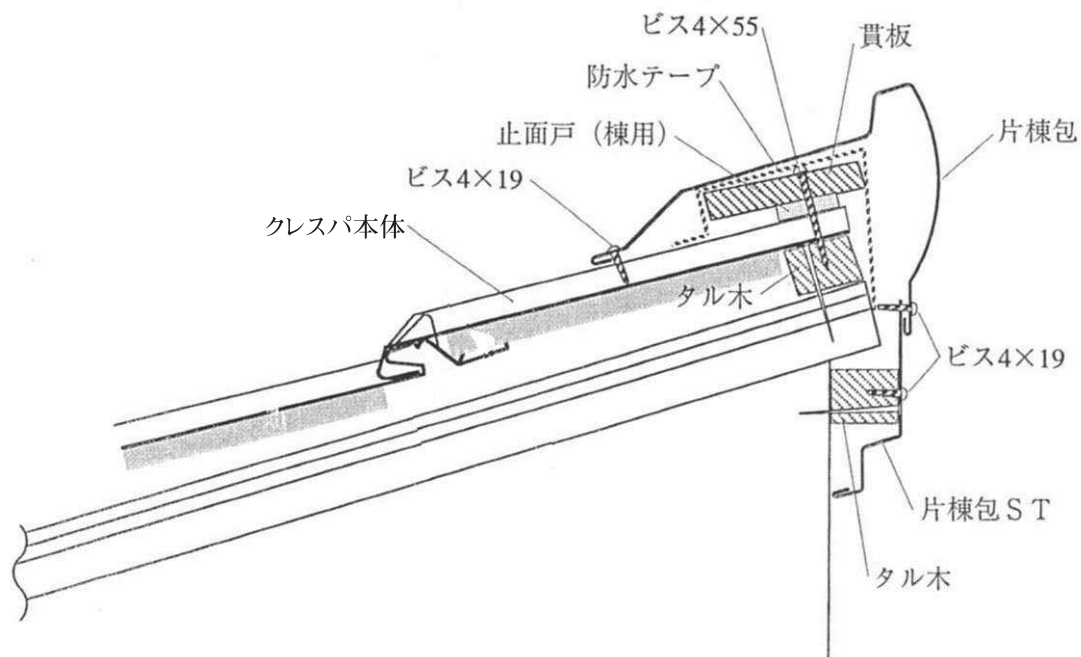
⑨片棟包の取付け（クレスパ本体が棟で終る場合）

- 1) クレスパ本体を棟まで葺き上げ、止面戸（棟用）を貼り、上から貫板で押さえビス4×55で固定します。
- 2) 貫板の上に防水テープを貼ります。
- 3) 栈木等木部は釘で固定し、板金役物はビス4×19で固定します。



⑩片棟包の取付け（クレスパ本体が棟で終わらない場合）

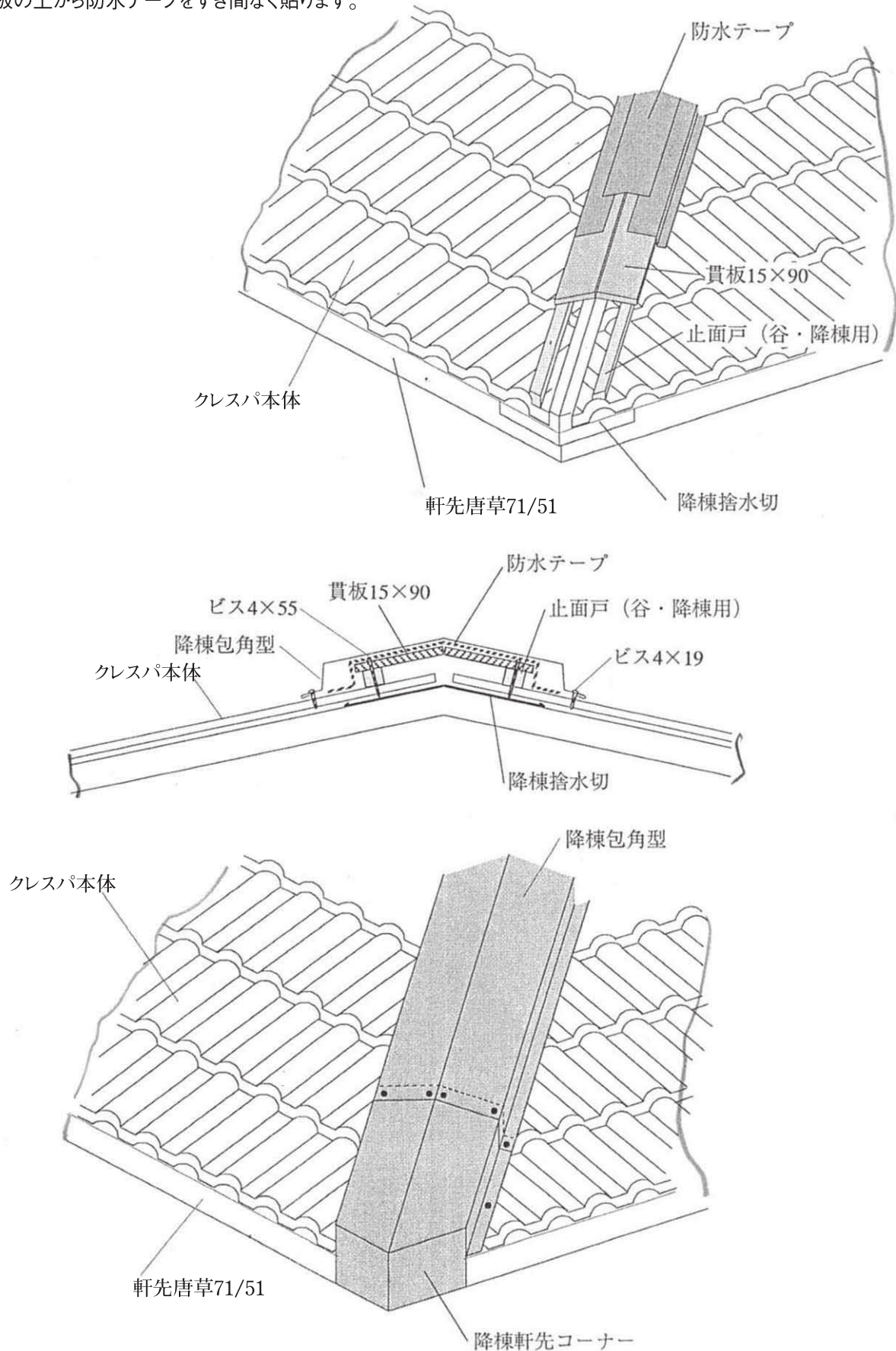
- 1) クレスパ本体の後端に高さ調整の垂木を取付けます。
- 2) クレスパ本体を棟まで葺き上げ、止面戸（棟用）を貼り、上から貫板で押さえビス4×55で固定します。
- 3) 貫板の上に防水テープを貼ります。
- 4) 栈木等木部は釘で固定し、板金役物はビス4×19で固定します。



5. 標準施工方法

⑪ 降棟の取付け

- 1) クレSPA本体を葺き上げ、止面戸（谷・降棟用）を貼り、上から貫板で押さえビス4×55で固定します。
- 2) 貫板の上から防水テープをすき間なく貼ります。

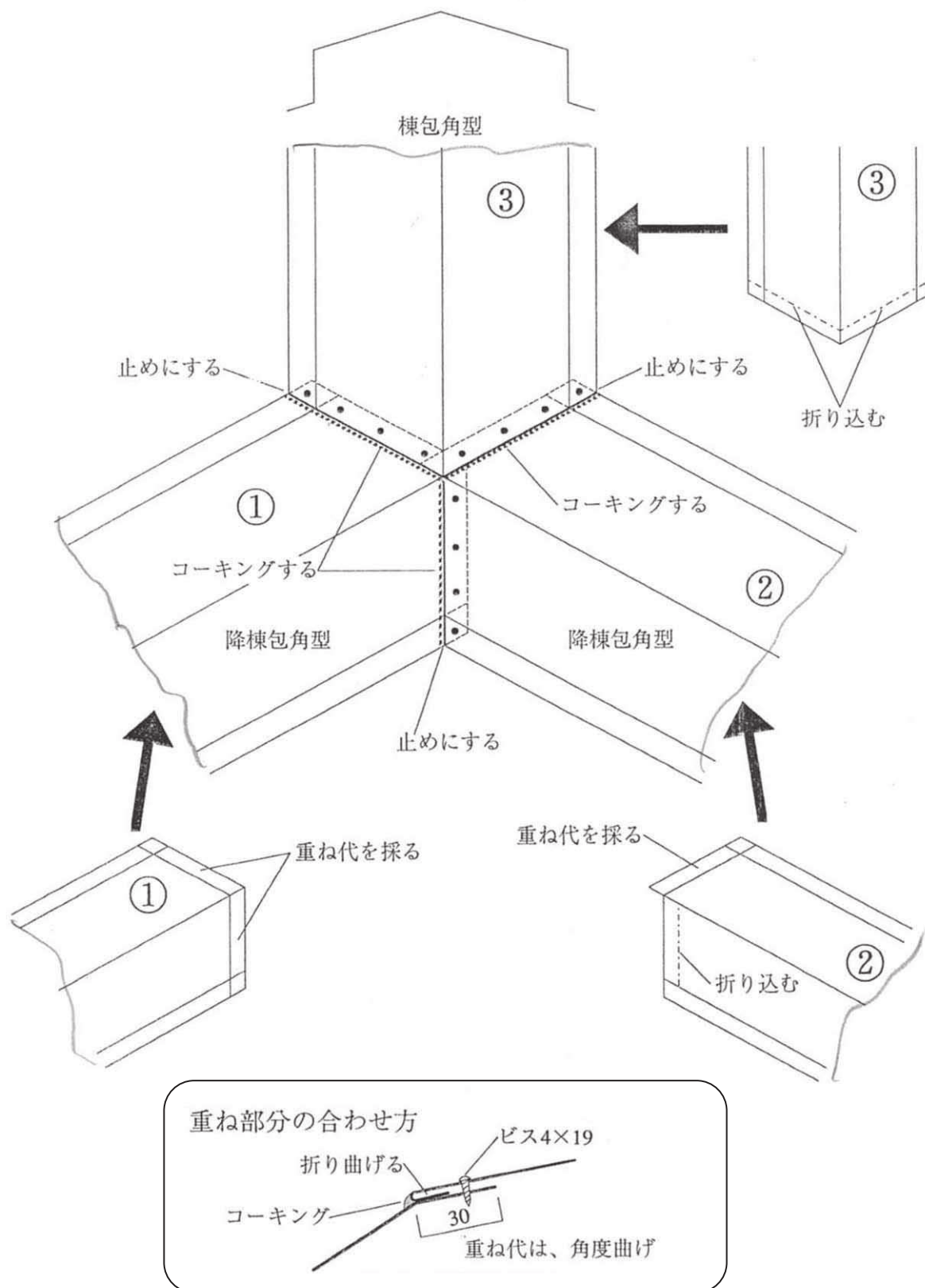


5. 標準施工方法

⑫ 寄棟・棟コーナーの取付け

- 1) 下地・桟木を止めに合わせて取付けます。
- 2) ビス4×19で所定の箇所を固定し、合わせ部分をコーキング処理します。

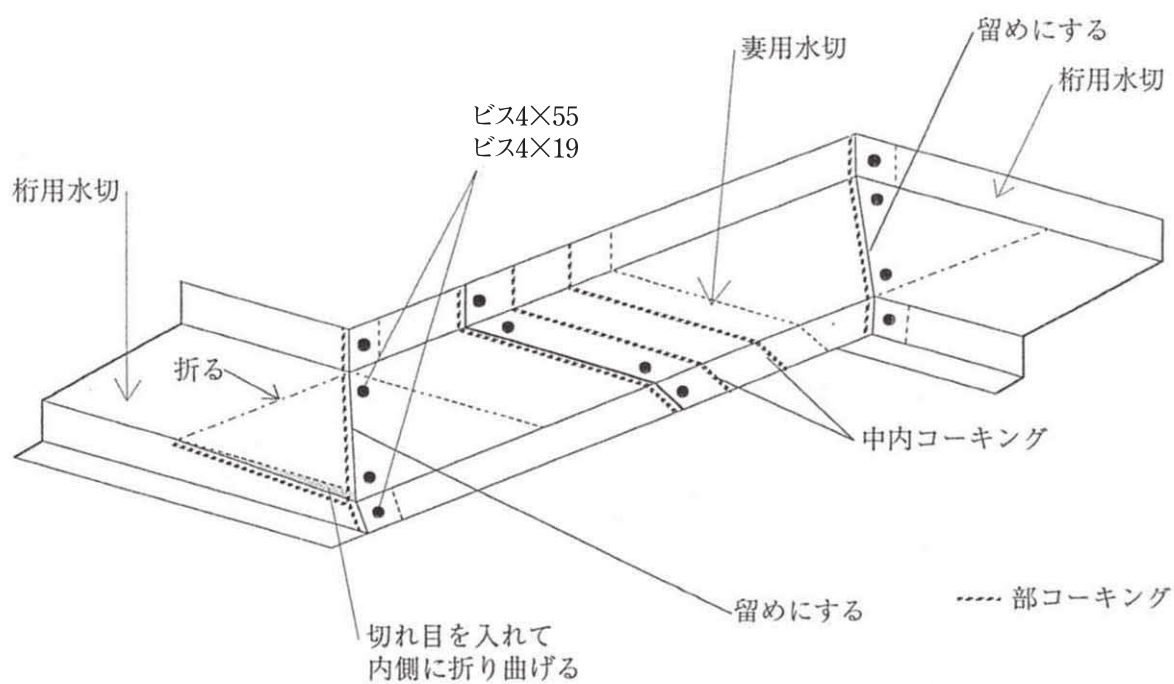
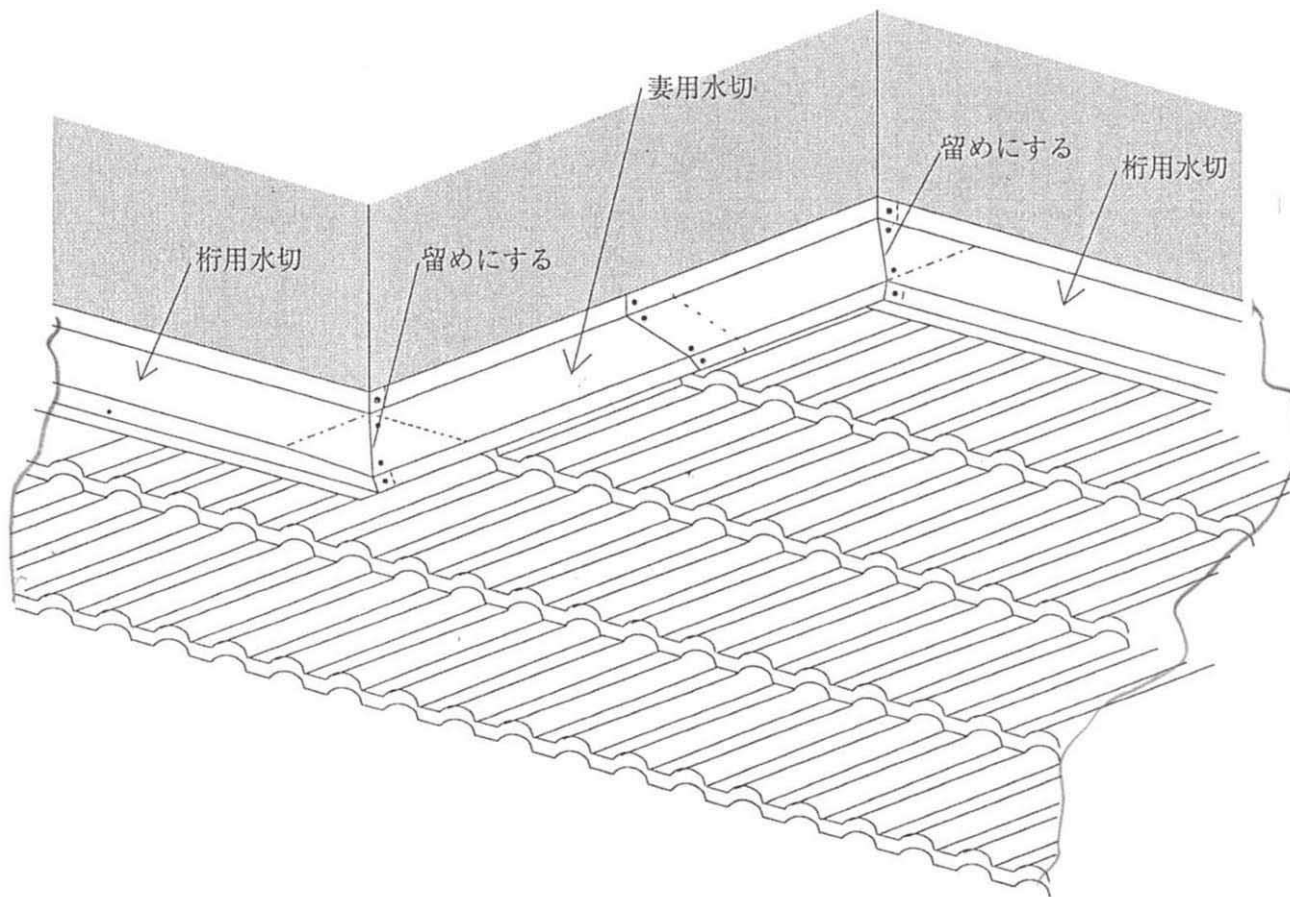
図中①>②>③の順で取付けてください。



5. 標準施工方法

⑬ 桁水切・妻水切の取付け

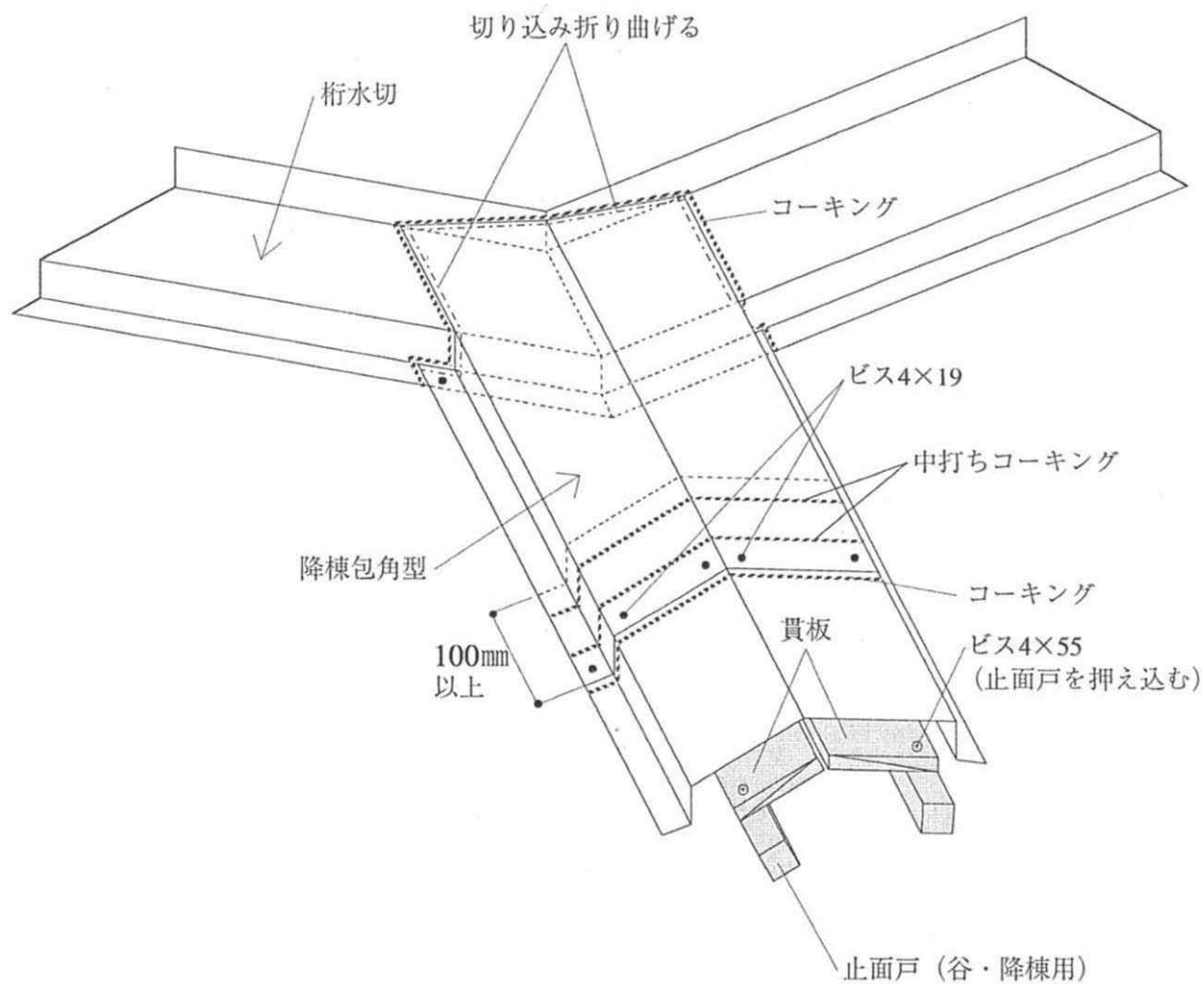
- 1) 桁水切と妻水切の下地材の種類と取付け方法の違いに注意して取付けます。
- 2) 合わせ部をコーキング処理します。



5. 標準施工方法

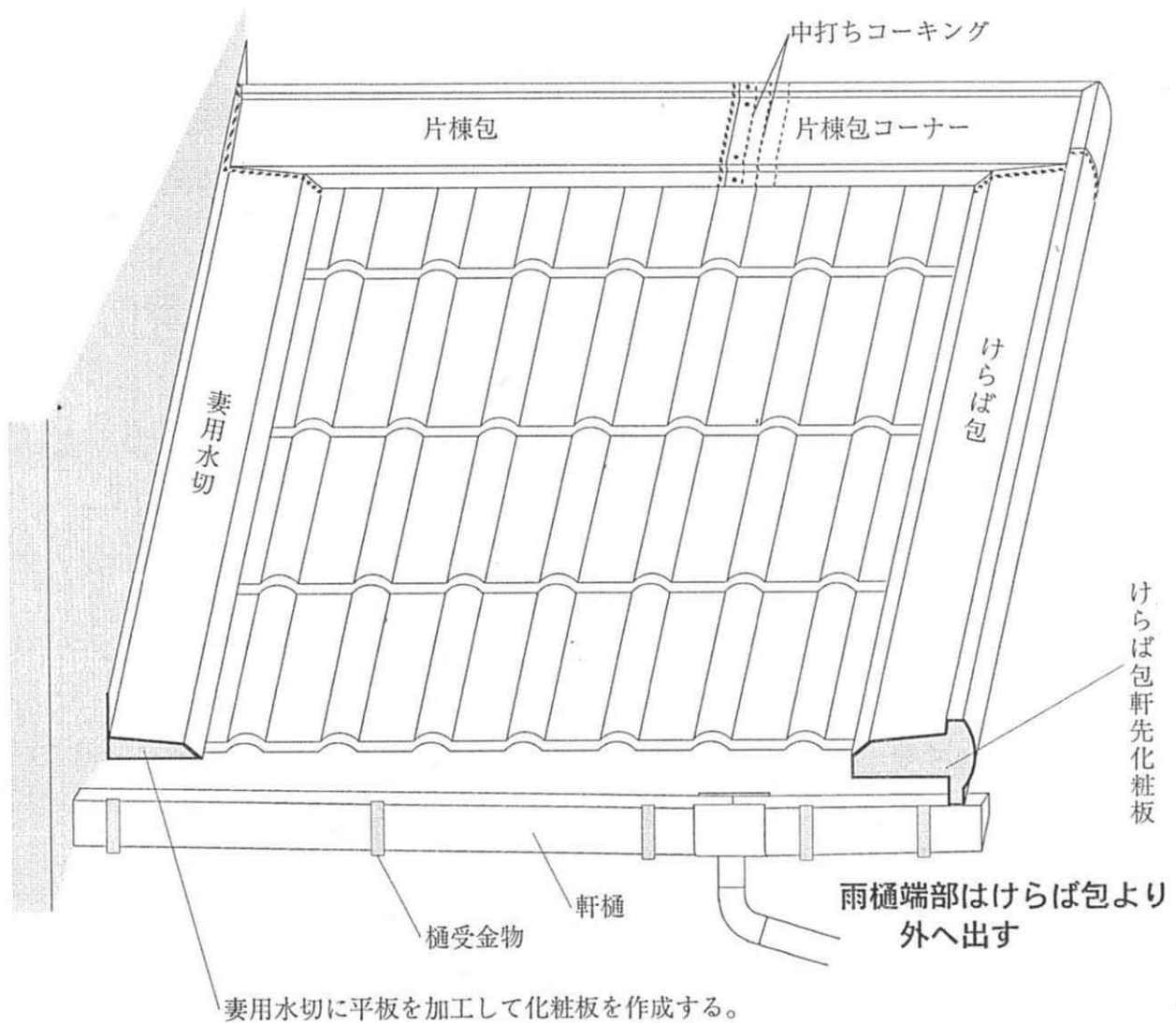
⑭ 寄棟下屋部の納まり

- コーキング処理した部分はマスキングテープで養生します。



5. 標準施工方法

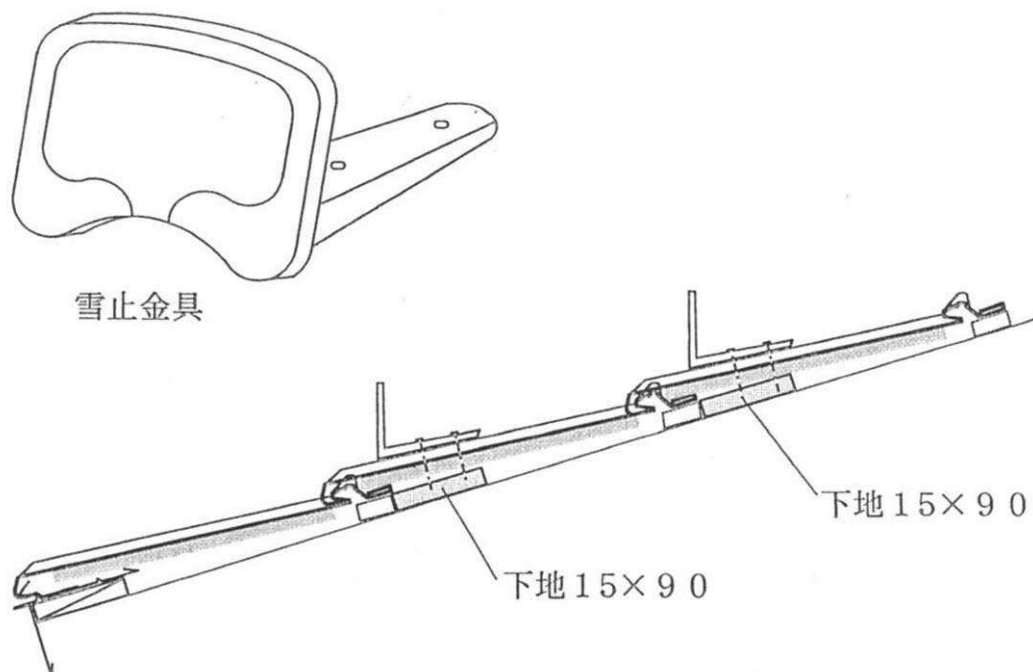
⑮ 軒先部役物の取付け



5. 標準施工方法

⑯ 雪止金具の取付け

- 1) 雪止金具を取付ける位置に下地材を必ず入れます。
- 2) 雪止金具をビス4×55以上の長さのものを使用し、1箇所にも2本で止めます。



- 下図を参照に積雪量に応じてバランス良く配列してください。
- 多雪地では雪降ろしも考慮して配列を決めてください。

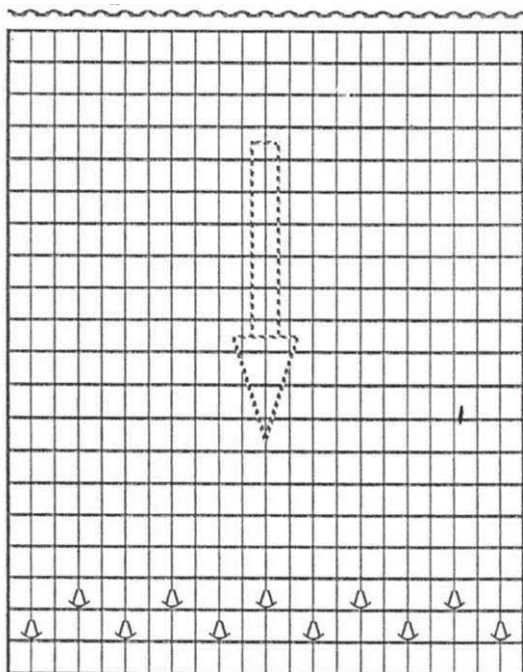


図-1 軽雪地の場合

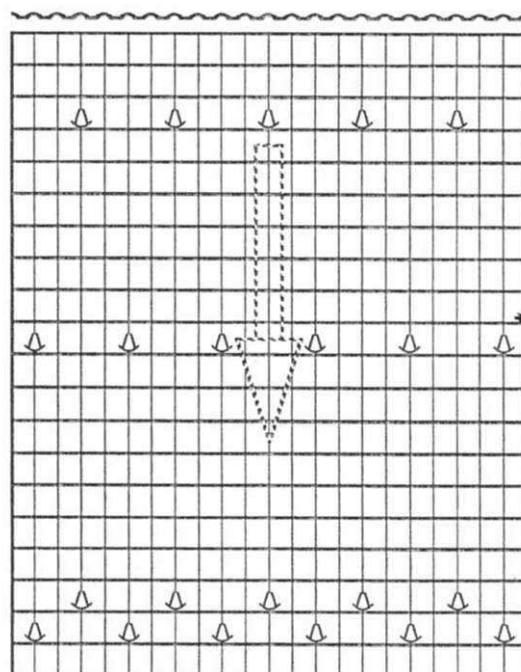


図-2 多雪地の場合

6. 材料積算

積算表 切 妻

●施主様名

●住所

●屋根面積各部寸法

	勾 配	面 積	軒長さ	ケラバ長さ	棟長さ	降り棟長さ	妻壁長さ	桁壁長さ	谷長さ
1F									
2F									
計									

品 番			品 名	入数	積算方法(単位:面積㎡,長さm)	部 材 数 量				注 意 点
ブラック	ブラウン	グリーン				1 F	2 F	予 備	計	
CR0001	CR0101	CR0201	本体瓦	6	屋根面積×1.65枚					
CR0003	CR0103	CR0203	軒先唐草71	6	軒長さ÷2.9m					前屋根材による
CR0004	CR0104	CR0204	軒先唐草51	6	軒長さ÷2.9m					前屋根材による
C R 0 3 0 4			軒先用アングル	10	軒長さ÷3.0m					
CR0005	CR0105	CR0205	けらば包	5	けらば長さ÷2.9m					
CR0006	CR0106	CR0206	けらば包ST	5	けらば長さ÷2.9m					
CR0014	CR0114	CR020	けらば包軒先化粧板(右)	5	けらば隅(右)箇所数					
CR0015	CR0115	CR0215	けらば包軒先化粧板(左)	5	けらば隅(左)箇所数					
CR0016	CR0116	CR0216	けらば自在棟	5	棟けらば取り合部箇所数					
CR0007	CR0107	CR0207	棟包角型	5	棟長さ÷2.9m					
CR0022	CR0122	CR0222	片棟包	3	片棟長さ÷1.9m					
CR0023	CR0123	CR0223	片棟包ST	3	片棟長さ÷1.9m					
CR0024	CR0124	CR0224	片棟包コーナー(右)	1	片棟けらば取り合部(右)箇所数					
CR0025	CR0125	CR0225	片棟包コーナー(左)	1	片棟けらば取り合部(左)箇所数					
CR0009	CR0109	CR0209	桁用水切	5	桁側壁長さ÷2.9m					
CR0010	CR0110	CR0210	妻用水切	5	妻側壁長さ÷1.9m					
CR0011	CR0111	CR0211	谷樋	3	谷長さ÷2.9m					
CR0012	CR0112	CR0212	谷用アングル	5	(谷長さ×2)÷2.9m					
CR0013	CR0113	CR0213	コイルW914	1						
C R 0 3 0 5			調整用ピース	10	調整分軒長さ÷0.376個					
CR0021	CR0121	CR0221	補修液	1	通常1本					
EF0025	EF0079	CR0219	ビス4×55	100	屋根面積×3本					
EF0026	EF0080	CR0220	ビス4×19	100	屋根面積×4本					
C R 0 3 0 1			止面戸(棟用)	50	(桁側壁長さ+棟長さ×2)÷0.94m					
C R 0 3 0 2			止面戸(妻用)	50	(けらば長さ+妻側壁長さ)÷0.7m					
C R 0 3 0 3			止面戸(谷・降棟用)	20	(谷長さ+降棟長さ×2)÷2m					
CR0018	CR0118	CR0218	雪止金具	50	軒長さ÷0.388m					

6. 材料積算

積算表 寄 棟

●施主様名

●住所

●屋根面積各部寸法

	勾 配	面 積	軒長さ	ケラバ長さ	棟長さ	降り棟長さ	妻壁長さ	桁壁長さ	谷長さ
1F									
2F									
計									

●部材数量

品 番			品 名	入数	積算方法(単位:面積㎡,長さm)	部 材 数 量				注 意 点
ブラック	ブラウン	グリーン				1 F	2 F	予 備	計	
CR0001	CR0101	CR0201	本体瓦	6	屋根面積×1.8枚					
CR0003	CR0103	CR0203	軒先唐草71	6	軒長さ÷2.9m					前屋根材による
CR0004	CR0104	CR0204	軒先唐草51	6	軒長さ÷2.9m					前屋根材による
C R 0 3 0 4			軒先用アングル	10	軒長さ÷3.0m					
CR0007	CR0107	CR0207	棟包角型	5	棟長さ÷2.9m					
CR0008	CR0108	CR0208	降棟包角型	5	降棟長さ÷2.9m					
CR0002			降棟用捨水切	5	降棟長さ÷2.9m					
CR0017	CR0117	CR0217	降棟軒先コーナー	4	降棟コーナー箇所数					
CR0022	CR0122	CR0222	片棟包	3	片棟長さ÷1.9m					
CR0023	CR0123	CR0223	片棟包ST	3	片棟長さ÷1.9m					
CR0024	CR0124	CR0224	片棟包コーナー(右)	1	片棟けらば取り合部(右)箇所数					
CR0025	CR0125	CR0225	片棟包コーナー(左)	1	片棟けらば取り合部(左)箇所数					
CR0009	CR0109	CR0209	桁用水切	5	桁側壁長さ÷2.9m					
CR0010	CR0110	CR0210	妻用水切	5	妻側壁長さ÷1.9m					
CR0011	CR0111	CR0211	谷樋	3	谷長さ÷2.9m					
CR0012	CR0112	CR0212	谷用アングル	5	(谷長さ×2)÷2.9m					
CR0013	CR0113	CR0213	コイルW914	1						
C R 0 3 0 5			調整用ピース	10	調整分軒長さ÷0.376個					
CR0021	CR0121	CR0221	補修液	1	通常1本					
EF0025	EF0079	CR0219	ビス4×55	100	屋根面積×3本					
EF0026	EF0080	CR0220	ビス4×19	100	屋根面積×4本					
C R 0 3 0 1			止面戸(棟用)	50	(桁側壁長さ+棟長さ×2)÷0.94m					
C R 0 3 0 2			止面戸(妻用)	50	妻側壁長さ÷0.7m					
C R 0 3 0 3			止面戸(谷・降棟用)	20	(谷長さ+降棟長さ×2)÷2m					
CR0018	CR0118	CR0218	雪止金具	50	軒長さ÷0.388m					



断熱材一体型 金属屋根材 外壁材 製造元

福泉工業株式会社

本 社 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木4丁2879-1
TEL 072 (273) 2277 (代表) FAX 072 (272) 2727
東京支店 〒105-0012 東京都港区芝大門1-2-8 COSMIC BLDG 5階
TEL 03 (3433) 0248 (代表) FAX 03 (3433) 1900
静岡工場 〒421-0411 静岡県牧之原市坂口1966番地の1
TEL 0548 (25) 0555 (代表) FAX 0548 (25) 0505

<https://www.fukuizumi.co.jp>

